



明本加  
字 566  
卷 5

# 倭字古今通例全書卷五

自字至久

字 變字 變字 變字

乾坤 月 閏月

作閏別字声イニハ餘分ノ月ニ三年ニ  
一五年再一十九年ニ七一爲一章

うーか

潮

又碧海水上書テモ同訓ハ朝又汐ハ夕クニ用。抱朴子云奈河トシ  
地河海水相傳擊五水相盪激涌而成ト云此說不宜可  
尋性理大全附志ハハ一洞又志ハハ  
一溢氏ニ日本紀神代卷ニ見タリ

うどゆくら

沢水

又うど  
洞

うすひ

薄冰

下字略メ  
氷ニ作ル

うのあまひ

十六島

在出雲  
國ニ

うまひ

碓冰

上野郡名  
古ハ碓日氏

うじ

宇和

伊与郡名 鰯ノ名所住吉神歌トテ玉葉ニイハレタ  
うじのこほりれ魚ノ名ニイハレタ  
そとあれせととてふとく

川五

三出

うかおまろ

馬鬣鼠松

源氏ゆがるといふ。タリ又書言故事五墳墓類封註若芥者上挾如刀此則儉而易就故俗謂之馬鬣封。馬鬣鼠松之上其肉薄封之形似之也。ハノタテカミニ似タル墳ノ上ニ松ヲ種タルヲ云墓ニルシク

うひよせき

鶯關

越前国名所。浦藻鹽草。大和国又河内国。里同所同断。歌枕ニ云河内国。岡山城国法。金剛院ノ北ノト

うづまさ

太秦

又廣隆ト書テモ同訓ク

旧記曰應神十五年秦氏來自支那養蚕勤機織造帛綿煖入膚云云註膚秦訓相通故以為氏又秦氏其績系入器次第増疊其形似巴渦故ウヅ一サノ訓アリト或曰此地立秦皇廟故加太字号トモ。格芥云推古十一年秦川勝建蜂崗寺ト俗ニシノ谷ト云又うらふれはに依里とのトヨメルハ摂州住吉ニアリ

うらふやま

瓜生山

山城ノ名所北白川ノ边

うち

宇治

旧記ニ菟道氏山城郡名又名所一山一川一橋一橋姫一橋孝德二年道登法師始造一帝王系圖ニ見タリ又伊勢ニモ宇治ト云所アリ西行法師交もよこえちれだつミトヨリ。一茶人中古自丹波国上林郷遷居於斯地凡橋以東一郡橋以西又世郡今制茶之名家皆在又世郡然依田云一茶也附一開山大和名所續古ニ依保大臣うらふやま山依田トヨリ

うらふさきあんせびのこと 鷓鴣草草不合尊

地神五代彦火火出見尊子母玉依姫之

うひれし

尉繚子

戦国時人見梁惠王説兵法有書名一武經七書之其一

うらぬこ

蠻髪

大和物語ニうらぬこトシテ後漢書注ハ髻髪又童子氏髪トモ書。宗祇法師云こころトトハ七歳ニテうらぬこトハ十二ニミテ

うらぬこ

後女

又後妻庄頼係ト云

同書註曰

うらぬこ

嫡子

又一女同訓ク詩經ニ先生

二字ヲヨム附うぬろ  
一妻又始妻トモ  
うきあひ  
宇合 世ニのきあひ  
ヨミ來比參議

式部卿一ノハ不比等三男有文武文聖武比將軍天龍二年  
遣唐副使四十四歳卒後百仙山山燃れいも乃小野のトヨ丸歌ア  
リ又うふ馬養ト云アリ羅山云うかふト  
うきあひ相通テ一之同人カノ由神社考

うむね

優婆夷 比比丘尼  
一塞し  
うらあせ  
腿 股左右ヲ云  
順倭ニ

うみぢ

頂 額中又顛  
訓をぢル  
うみ  
外障 目  
病

うひげ

髭 又うひげ鬚  
多識ニ  
うな  
乳牛

うぐい

鶯 作鶯俗之礼記月令倉庚コレうぐい寸トキヨ一説ヒリ  
ト云不知何是又黃鳥ト云ハ和人專ラ鶯ノ異名トス然  
ル中華ヨリ來ル所ノ黃鳥ノ繪本朝ノウグヒストハ各別ノ別  
名黃鸝ト云又春鳥子ト云未見出所又金衣公子ト云ハ鶯ノ

異名クウグヒス假名  
遣訓母口傳有  
うぐ  
鶉 礼記月令  
春日化田鼠為

同訓  
又鴛  
うと  
魚 註いノ字  
ノ所ニ委

うぐい

鯉 下学集ニ又鯉本州ニハ不見ウグヒトハ鴨食ト云義之頭中ノ  
歌毎失れ老も海もふも海にうぐいのうもかこれとけり

うらめい

黒目鰯 出所  
未詳  
うし  
蝮蝎 蛇ノ大  
ナルモノ

うらむい

守瓜 又蟻ウリ  
ノ虫  
うど  
蝦蛆 膿沸虫流  
下書テ

ワきうどたうと  
訓ス日本紀神代卷

生植 うへき

樹 附うへき植  
又栽又種  
うづ  
烏頭

うしむい

石龍菊 順倭多識  
ニ下字作曲  
うき  
茴香

カトモ

うり

瓜 作瓜俗又瓜トモ無後名遣俗ニありト書古書ニテシ若ハ  
何瓜ト云時ハフリ氏可書欽。催馬樂、呂歌ニ山越此狗乃  
あつりのうり氏と云又うり氏ハ源氏紅葉賀ニモ見たり  
拾遺大綱言朝光をとききくこ海のあつり氏とありとあり  
くありなるるるる又瓜ハヒロハノカヅラ氏云万葉歌ニふるは  
ひろそ乃るるるるをきんあやもなうく寸も花をすつてふ附あ  
まうりと甜ーひめうり  
瓠ちろろり越瓜

服器 うんぎ

襜

ウノキ又氏ウチカケ氏云又表衣氏カク是ハ常躰之上タル人  
うんぎぬ袍ト云ハ東帯色目曰元服後大臣ニテハ袍ノ丈  
丁子丸杏葉タスキノ撰政関白ニ成テハ雲立漏ノ丈太閤ノ時雲  
鶴ノ地ハ何モシラノ綾前途ノ後宿老ノ人ハシラチキ鬨斗目  
綾ヲモ着スルノ夏ハ敷文ハ冬同色ハ何モフシカ子染ノ濃紫ノ由  
但五位中少將ハアケケ色ノ冬ハ平絹ノ裏アリ撰録ノ時ハ夏袍  
浮線綾ノ由嘉禎四年四月或記ニト云云。附袍ノ各所大神トハ  
奥ノ袖ニ膝袖トハ端ノ半幅ノクニカニトハエリノ一トハウトハホ

うんぎぬ

タラウノ糸リトハオクゼイノハコエトハ後ノ代ニアリサキハ  
兩腰ノサガリノ襦トハスツノ横續ノ同書ニ又袍ノ著用ハ前袖  
ビタ東帯同然後ハ袋ヲ外へ出シ上ノヒダハヒダニメ  
内懐ニテシムル同ヒダノ下へ成様ニ著スベシト右同書ニ

表袴

中少將ヨリ大臣大將ニ至ルニテモ弱年ノ時ハ百縮線綾  
窠ニ敷ノ浮文ヲ用フ裏ハ紅打ノ平絹ノ十五歳以前濃  
裝束ニハコキ打ノ裏ヲ付ベシ又大臣大綱言等ノ大將ヲ不兼時ハ堅  
文ノ藤ノ丸ヲ著ス裏ハ紅打ノ大臣大將モ宿徳ノ義ニテ固文藤丸  
用フ子細ナシ一日ノ儀ノ晴ニハ宿老大臣撰政関白モ  
浮文窠敷ヲ著用アル例ノト東帯色目ニ

うんぎぬ

鶉衣

短衣ノ賤者  
ノ著衣  
うハねび  
般筆 上帯  
ナリ

うんぎぬ

袴

又表敷又鞞ハ  
鞍ノ具  
うけぢり  
汎織 作汎俗

うんぎぬ

紅糟

附うんぎぬ赤豆ノ丸止ナリ  
十五日赤豆ノ丸止ナリ

うむびやう

温餅 作温餅 俗ナリ

うぶづこ

袂 作帙作袂モ同 フキ尺訓書上包

うつねほろ 宇津保物語

源頼カ作二十卷アリ今世ニ行ル、上下ハ右二十卷内俊景ノ巻ト云ノ由

うちと

團扇 又方扇 トモ

うえ

筍 取魚器之莊子ニハ 作筍俗ウケト云

うつせがひ

空背貝

万葉ニ又虚貝馬内侍ウカリケルこの うれ備のうみせがひトヨメリ

うたほろ

虚舟

杜子美カ句ニ虚舟トアル ウツホ子ニアラス

うつハモの

器

作器俗ニ 又蓋同訓

うづえ

卯杖

又うづち 尺同義

漢官儀曰正月卯日以桃枝ヲ作杖厭惡鬼又文徳實録 日仁壽二年正月巳卯日諸衛府献一追精魅之ヲリ 或人云一ハ天子ノ御タケニ ヲラベテ桃ノ梢ヲキルト

うのふ

打度

万葉ニうのふてれつえのうのふたふ又うのふ打絶是ハ 心ガルねむをりそんれをのうのふにホ

うのふ

柱

又澁田島ソウツ 之ウカツモ訓通

うふる

植

順ガ歌ニたのい ちをゆく人

うのふ

のふ

うつむ

俯

又俛世ニうのふ 尺書ウツム

うのふ

の類

うえ

飢

又饑附ラえを尺 殍ノ字

うのふ

領状

遊仙ニ又領許又顛頭又點頭又類字書 註曰低頭聽也ウケツクヌカツク拘音ニ通

うむ

産

又生又誕淮南子曰犬ハ三月而生豕ハ四月而生猿ハ五月 而生鹿ハ六月而生虎ハ七月而生馬ハ八月而生牛ハ産ハ

うむ

不見与馬一欵私云猫 三月諸鳥凡廿一日而卵割

うぶ

産育

左傳攝字 附ウキ一衣

うのふ

背語 又後語又 嚙トカク

うぶ

失

亡同 訓

うつろひて

日本紀ニ遷轉ノ二字ヲ訓ス又写用所ニヨルシ人ノヲトクハ  
移タルヲうつろふト云ハ衰ノ字又花ナドニモ用月々うつろふト

云ハ徒  
ノ字

うちれいひて

内膳 常ニ音ヲ  
用唐名尚

食局正奉膳典膳  
令史アリ

うやまふ

敬 又恭  
うやくしル

うたふ

許訟 声ソセウ倭書多クハウシク以テトカク類シ又  
一ニ詔ノ字ヲ用ル人ニアリ詔モ声ハセウ訓ミコトナリ

うるく

麗 又反善氏日本紀ニハ明彩ノ二字又うれり愛ノ字  
又愁ノ字但用所可味ナリ

うれへ

愁 又患

うぬくま

初々敷 又弱々  
俗言

うらむ

猶豫 うらむ心又うらむ海  
心之ト云又たトゆモ出

うるかひ

潤 又濕又濡又うるりルモ主ニ  
うるかひ

うけふ

肯 又諾又旧事記  
ニ誓約ノ二字

うけい

美 又つくりル

うへ

上 又表アラハスト訓  
スル時二字義同

うけ

呪咀 人ヲのろム  
之法華普門

品一ノ諸毒藥所欲害身者トアリ源氏ニハうけルトアリ  
伊物ニハつゝもあき人をうけハハレヌトアリ又同訓ニ誓約  
日本紀ニ但是ハ  
心替ナリ

うだう

堆 又崔

うごひ

疑 作疑俗  
又嫌

うらめさ

悋 恨布

うらむ

杪若 業平朝臣うらむヲ終ルケトヨメリ  
六条宮ノ真名伊物ニハ末稚ノ二字

うらむ

譫語 病人  
ナト

うらむ

窺 作窺俗又  
伺又候

うらむ

虚 うらむ  
又冲ノ字

うけ

承 又奉

うさひ

謠 又諷附うさひのささうニハ聲ノ字又リノカウリニハ  
訛ノ字止觀ニ又ささうとすニハ囉ノ字ク

うかひ

漱 鶉飼トモ又漱  
うかひ

蹲踞 ちりうさげ  
氏訓ス

うづむ

埋 作葬  
同  
うらむ

賣買 又活ノ字  
氏訓ス

うらむ

打過 うちすふ  
トモ源氏ニ  
うらむ

鬱證 上ノ字作鬱  
同附一陶ノ

うらむ

占 又著ニハ占龜ニハトク又うらむト合ニ神代卷ニ  
又うらむト定ク是亦日本紀ニ見タリ

右往左往 作往  
俗

うらむ

狼狽 陳情表ニ  
うらむ

打延 袖ウ千ハハ  
ノ時ハ振字

うらむ

俊成カウラウラウ  
の字絶ウラウラウ

表虚 未詳又同訓  
上天

うらむ

氏 又姓附うらむをて一袖うらむ云左傳隱公八年日因生以  
賜姓胙之土而命之氏然氏ト姓トハカハル之猶左傳社  
氏註及史記高祖本紀  
之索隱ヲ考ベシ

うらむ

氏家 うらむ

雲林院 人ノ姓以  
下準之

うらむ

畝尾 うらむ

鶉飼

うらむ

陰陽 作陰作陽共ニ俗ノ氣与  
陽同字氣与陰同字也



爲變爲變る變ぬ  
又圍變圍變并

乾坤 ぬんやう

井 字書註日穿地取水伯益  
造之因井爲市也

附おがき

韓 神前  
ノ井

ぬん

ガキニアラズ井戸  
垣ノ字彙ニモ井垣ト註

又おげ

井桁又おげ  
一箇



ぬい

又ほぬづ 韓井筒

伊物ニ此ぬづぬづに  
あつてまろくけ

械

頃倭註曰淮南子云决塘發<sub>テ</sub>許慎云<sub>一</sub>所以通<sub>一</sub>波  
實也俗ニ云埋桶又俗ニ是<sub>一</sub>イ<sub>一</sub>ト云テ文字亦作<sub>一</sub>以<sub>一</sub>字

尤非

ナリ

ぬせき

堰埭

頃倭註曰  
過水也常

上ノ字

斗モ用

ぬごころ

座

作座俗<sub>一</sub>  
又墟同訓

ぬろり

圍爐裏

古書いろ  
ア<sub>一</sub>用

ぬぐき

井垣

井ノカキニア  
ラズ神ノ井

ぬろり

田舎

作舎俗<sub>一</sub>又夷中<sub>一</sub>居<sub>一</sub>居<sub>一</sub>又<sub>一</sub>一<sub>一</sub>徘徊<sub>一</sub>トモ書<sub>一</sub>ナリ

ぬれぬ

猪熊

作猪非<sub>一</sub>  
在洛陽<sub>一</sub>

ぬるむら

因幡國

旧事記<sub>一</sub>  
作猪熊<sub>一</sub>

古書ニハいるむナレ<sub>一</sub>因<sub>一</sub>ノ字  
ノ声ヲ考ル<sub>一</sub>時ハ中<sub>一</sub>ぬ<sub>一</sub>必セリ

附ぬるむら<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>堂

洛陽

高辻<sub>一</sub>南<sub>一</sub>鳥丸<sub>一</sub>東<sub>一</sub>薬師<sub>一</sub>ハ

又ぬるむら<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>山

美濃國ノ  
名所<sub>一</sub>今日<sub>一</sub>

岐<sub>一</sub>阜<sub>一</sub>古<sub>一</sub>今<sub>一</sub>行<sub>一</sub>平<sub>一</sub>た<sub>一</sub>ら<sub>一</sub>り<sub>一</sub>れ<sub>一</sub>い<sub>一</sub>る<sub>一</sub>此<sub>一</sub>山<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>歌<sub>一</sub>清<sub>一</sub>輔<sub>一</sub>抄<sub>一</sub>ハ<sub>一</sub>因<sub>一</sub>幡<sub>一</sub>國<sub>一</sub>ノ

由<sub>一</sub>八<sub>一</sub>雲<sub>一</sub>御<sub>一</sub>抄<sub>一</sub>ニ<sub>一</sub>三<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>國<sub>一</sub>又<sub>一</sub>稻<sub>一</sub>葉<sub>一</sub>正<sub>一</sub>書<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>建<sub>一</sub>保<sub>一</sub>百<sub>一</sub>首<sub>一</sub>ハ<sub>一</sub>因<sub>一</sub>幡<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>二<sub>一</sub>字<sub>一</sub>ナリ

然<sub>一</sub>時<sub>一</sub>中<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>無<sub>一</sub>疑<sub>一</sub>ト<sub>一</sub>イ

ぬのむら

井於社

攝州<sub>一</sub>鳴<sub>一</sub>下<sub>一</sub>  
郡<sub>一</sub>神<sub>一</sub>名<sub>一</sub>帳<sub>一</sub>

ぬるやま

猪名山

攝州<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>名<sub>一</sub>所<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>原<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>一<sub>一</sub>澤

附ぬるむら<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>山

一島崎

万葉<sub>一</sub>ニ<sub>一</sub>アリ  
此<sub>一</sub>名<sub>一</sub>所<sub>一</sub>未<sub>一</sub>詳

又ぬるむら<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>養<sub>一</sub>山

大和國  
吉野郡

ニアリ又飯<sub>一</sub>貝<sub>一</sub>山<sub>一</sub>正<sub>一</sub>書<sub>一</sub>ナリ万葉<sub>一</sub>  
あ<sub>一</sub>ら<sub>一</sub>む<sub>一</sub>ら<sub>一</sub>れ<sub>一</sub>ぬ<sub>一</sub>ら<sub>一</sub>ひ<sub>一</sub>の<sub>一</sub>山<sub>一</sub>あ<sub>一</sub>ら<sub>一</sub>ぬ<sub>一</sub>麻<sub>一</sub>の

ぬるやま

膽駒山

攝州<sub>一</sub>ノ<sub>一</sub>名<sub>一</sub>所<sub>一</sub>昔<sub>一</sub>聖<sub>一</sub>德<sub>一</sub>太<sub>一</sub>子<sub>一</sub>山<sub>一</sub>背<sub>一</sub>大<sub>一</sub>兄<sub>一</sub>王<sub>一</sub>為<sub>一</sub>養<sub>一</sub>我<sub>一</sub>  
入<sub>一</sub>庶<sub>一</sub>被<sub>一</sub>致<sub>一</sub>逃<sub>一</sub>入<sub>一</sub>此<sub>一</sub>山<sub>一</sub>自<sub>一</sub>殺<sub>一</sub>ス<sub>一</sub>ト<sub>一</sub>云<sub>一</sub>俗<sub>一</sub>ニ<sub>一</sub>い<sub>一</sub>ハ<sub>一</sub>生<sub>一</sub>駒<sub>一</sub>ト<sub>一</sub>書

後拾遺ニヨリノハヤスシキニシテ...

附由は

澤 陸奥郡名此郡ノ内ニ志波姫神社トカク...

印南野 作印俗万葉ニモ出タリ播戸郡ノ名...

わがま

異吹 又伊吹也足軒ノ云一ハ美濃近江兩國ノ名所...

不破郡ト云云名所方角ハ濃州ノ斗ヲセタリ...

古來いぬ兩説ナリ

わさきやま

井碓山 名所記ニ云未詳

わさきやま

遠江国引佐郡ノ名所十載ニあらず...

不詳

わんげうてんとう 允恭天皇

二十代都大和石上ニ是ヲ謂穴穂宮...

わさき

膝行

作膝俗一トハ居ナカフ去ト云ニマ...

わら

缺脣

又兔缺又嚼...

わさき

腎

又尻又尻皆同...

わら

胃腑

上字説文ニ...

わんげう

陰囊

附ウキ...

わ

膽

ハ為中...

わのち

猪

作猪誤ク又...

こ伏一床附わんげう一頭又十二支...

わのこ

豕

又豚俗ニ云...

わんげう

音呼鳥

ノハ多...

わら

貽貝

介雅注ニ曰...

わら

守宮

又廬蟪氏又...

古書ニハ...

皆本州及丹鉛録ニ出タリ守宮ノ字ハ法華ニモアリ雜書ニハ守トアリ誤ク附わりのなる一ノ印是ハ戀詞之ぬくもの此かき  
る事のきぬわりの  
ちり一今あしな

**生植** **わのこづち**

牛膝 葉ニ音  
ヲ用

**わのこづち**

**赭魁** 順徳引  
本州一

**わぐさ**

蘭 筵ヲ織又作灯心ヲ附ねる由  
大荒又ふとカトモ訓ス

**服器** **わんゑ**

韻會 字書  
ノ名

**わんゑ**

**位袍** 又号ス表衣深  
紫淺紫深緋

淺緋綠黃衣等  
アリ束帶色目ニ

**わのこりら**

**豕子餅** 或作亥兒  
上世玄猪

ト云十月亥月之豕与亥相通郡忌際集日十月亥日食餅除万病  
也ト又下学集「説豕能生多子故ニ女人羨之至十月亥日献餅祝之」  
云云○花鳥曰「七種餅粉大豆小豆大角豆胡麻 栗 柿糖以上七  
種之源氏物語」ぬのこれちちの三ツグハミト云ニ口傳アリ

**わご** **わき**

**圍碁** 作棋作碁共同異名博奕又手談也云博物志曰堯  
造一ノヲ以教子丹朱ト云不詳附一ノコウヲ立ルト  
云ニ劫ノ字之源氏抄ニ又同書ニけちるすりトアリ古書いと不用  
タメサスト云うせこの巻ニけちるすりトアリ古書いと不用

**わんろ**

印籠 下字或  
作籠

**わんきん**

**印金** ランバクノ類之  
又トニキント

讀時ハ所  
ノ名ナリ

**わんい**

**位牌** 作牌俗一  
ハ公家ノ

位簡之版位牌位座牌也云有寸法長一尺四寸弘八寸五分  
厚七寸 但七分カ  
天慶四年九月廿五日定拾芥ニ又寸法有他説  
時代ニヨリ替一モアルベシ今佛家爲ニ者  
借之名然無寸法隨貧福作小大也

**雜事** **わんちうち** 印地打

因一ノ在五月五月戲諍  
京ノ西陣ニアリ

**わうい**

**位階**

官位令曰一品ニ一三四一已上爲親王一ノ推古天皇  
十二年十二月始置冠位十二階同十二年正月始賜冠

位諸臣等云々又女子ハ かん志い 飲食イハノノ

おぼろ 遺尿附カセい おぼろい 坐作

おぼろとろに 居作屈同又坐ノ おとろ古書ニミヤヒ 諱左傳曰生曰名

おぼろ近來誤テ字ヲトモ おみ死曰然日本 忌此カチ類々ト有

おぼろ附一端儀 異風附一端儀 かんやう 隠謀

おぼろ一説等 因縁 おとろ 委趣意一氏附

おせい 威勢作威勢興俗附カギ かんむ

おんか 印可又一紙 かんむ 負數附一外官位

おてたてまつる 奉持 おてゆく 持行又カセト斗

ラ書易師彖以衆正字書左右之也トアリ伊物あくた川

とのめらをのそいきハトアリ又以行氏書附カセト将来

おぼろ 圍遶一カウガウ おぼろい 異口同音

おろい 猪飼人ノ姓以下准 おころう 印東井藤モ

おろい 猪名部又カガ おれま 猪股又一子

の 乃変乃変の之又能変能変カ変此 又農変虫変カ

乾坤のりき

暴風 又くつて凡のりきれん凡訓へ又野分凡是訓母カ  
宗祇法師ゆふせり花れ枝々まのふすり

のあひ

野際 野又  
作埜 のぢまのりき 野路篠原 江

ノ名所鏡山ノ禁く又のぢれまのりき凡  
玉葉ゆふさき遠きゆゆれまのりき

氣形のうぬん

能因 長門守永愷く出家後号古曾部  
入道歌道名譽者ナリ

のうにん

農人 附のうげう  
一業 のうに 膿耳 耳ノ  
病

のんごふえ

吭 ノドハ爲持ナリ  
フエト斗モ又ふ

生植のうえ

蘓 紫トト書  
テ音ヲ用 のうぜんづ 凌霄花 又陵苜  
トモ出

所未詳

服器のうぬん

暖簾 座席く附のんきノ時一氣トカク又禪家ニ云のん  
一寺又のんき一寮皆俗言ナレ凡ダシウノ舌音ニ

尉斗鯨 上字作  
尉同

雜事のうふ

拭 又揮日本紀ぬごひトアリ  
今ぬぐト云相通テ云

のざれつふ

荷前使 にぎきれつふ凡十二月陵へ奉幣ノ使く年中行事  
曰太神祭後立春ノ前トアリノギキ并キハ舌音ニ

のぞいて

覘 窺見  
ナリ のぞへ 延  
又木ノのぞえハ  
えこ一枝

のろふ

呪咀 伊物ニあまれさるるてとらめて  
のろふトアリ又ろけト訓ス

のうけ

能化 天台及真言ノ僧  
談林ノ住持ヲ云

のう

能 古ノ猿樂ナリ東山殿ノ  
時ヨリノウト云トゾ

のこまふ

のこまひ  
又命  
又宜

のりあひ

乗合 又のりかへ替  
又のりうら打

上字作  
乗俗之

のがさる

遯 一世ホク  
道モ同字

● 札

於変於変れ変おこ

既坤

ねんぞろ

虚空 宇宙同訓  
俗ニ大空

ねぼろづき

朦朧 字書日月  
色不明也

おき

沖 又澳附おき  
みこー津浪

おほらみ

溟渤 大海ノ回事  
記ニオホキ

ウミト  
魚ス

ねてい

淤泥 又ドロ  
ト訓ス

ねらあな

おろあな

埵 作階同又窠  
或作阱

ねのへ

岨峯

尾上ナリ  
非名所

高砂尾上ト云モ非名所山ノ惣名之又高砂ノ小江ハ  
播州ノ名所之假名モ是ハたうさごれをのえナリ

おほらみ

御田 非名所賀茂ノ供田之新古ニ幸平おほらみ  
んくりせきさけくわきんおほらみ

ねやち

大路 日本紀御地  
所ヨリ可用

ねほらみ

洪水 声コラ  
ズイ

おろー

下風 深山ノ時ハ  
中ノをナリ

おほこれ

殿 宮一  
ラ云

ねやち

大内 内裏之附  
一山

ね

園 獸ヲ入之又窠  
同訓人ヲ入之

おろまのつら

監物局 六位ノ  
侍任之

おほやち

多社 神名帳ニアリ  
又大社氏在出

雲国日本紀曰素盞鳴子大己貴ト又神祇令ニ  
素盞鳴子トアリ又一トアリ杵杵明神ト云ナリ

おほきまらり 正親町 在洛陽ニ附おほきまらり

おほかろく 意富加羅國 委 おほやま海 大八洲 日本惣名

洲トサス國々アリ 委神代卷ニ 大日本 日本惣名也大倭義

解云一豊秋津洲附おほやま天和二十二社其ニおほはとモ又おほはとトモ訓ス三輪神社之分テ云時天和ト大和トハ二社ナリ

おほすねん 大隅國 類聚國史云和銅年中割日向國四郡置之天長元年停多槻島

おりのくに 尾張國 日本武征東夷而遷於一所帶之劍在熱田云云明神是此劍本自大蛇之尾張出之此劍留此國故

日一ト也 松久 備前郡名 松え 今案ニを 麻殖 阿波郡名

おほく 邑久 備前郡名 おふ守海 男令衣 武藏郡名

神アリと云まほこのやまろ小被神社神名帳ニ 松一 意宇 出雲郡名

おほり 邑知 須俣ニアリ雜書ホニ作リ智石見郡名附おほはと一美因幡郡名ナリ

おほり 大分 豊後府今大方ト云 おあき 邑樂 上野郡名

又同訓ニ大荒木ノ社山城京ト鞍馬ノ間ナリ能因ガ歌枕ニモ見タリ

おひたせやろ 老尾社 下總國連 松のうら 生浦 伊勢ノ名所

或記ニ志ナ國ノヨシ一青宮ノ御莊獻梨処ノ歌ニ伊勢ト志ナトハニワヨム元一國ノ故ト云万葉ノ歌極府のおおはとまほしわれハ

おまへのお記 御前沖 撰州武庫郡 おひそねり 老曾社 近江名所

巽ノヨシ名所方角ニ古訓老ヲおはにアリ不穩 松かたの 息川野邊 大河邊

芳野川ノ下初瀬川ト紀川ト落合テ大河トナル故おほかくの  
トナリ古奇ニみりてのちほ川のくれみちるものトアリ

おきみの海やま 沖津島山

近江名所在湖中附おきりとも奥津濱ハ和泉國  
又おきみのこと奥津里ハ駿河ノ名所ナリ

おきれの海 奥小島

續後撰集ニ鎌倉右大臣のこひりせられしは伊豆  
の海やれきれこゑにトヨメリ又沖小島千載ニ康頼さらま

大仲の小島にトヨミシハ元薩大國ノ硫黄島トモ  
又隱岐小島是ハをきれく海トカク以上ニテ所

おくれの海 奥海

作奥俗陸奥名所定家卿  
たつひらくれんのかろ海

おくれの海 大堰川

又大井川東路ノ一ノ名所ニアラズ歌ニアル山城  
國ノ一ノ此川上ハ清滝川戸難瀬桂川淀川の

流 附おえの海 江山

丹波國栗田郡俗ニキヒノマトス  
續拾遺ニワのやまのえれ海又

おえの海 又おほく

又おほくやま 倉山 江州 又おほ  
名所

よせの海 淀

伊勢國多氣郡尾張ノ中間ノ海ヲ云  
一ノ浦一ノ濱一ノ松皆一ノ古歌ニアリ 又おほ

ろくの海 原

山城愛宕郡一ノ川一ノ山  
一ノ里皆一ノ所ナリ 又おほくのこ

國里 江州 各所

おりの海

陪膳濱 江州 各所

おほろの海 朧清水

城北大原ニ在 又異説アリ  
おほろの海

尾駮御牧 奥州 各所

おほのかの海 飯宇河原

出雲ノ名所新古ニみりぬれおのからく海ニモ  
又おほのうみ一ノ海おのれ海のおくぬくはた

おこや

男山 山城國綴喜郡  
と鳩嶺又石

清水皆一所也貞觀年中和州大安寺僧行教  
勸請宇佐八幡大神一旧記ニ見タリ

おきれの海 奥井

奥州名所荻野井ト云モ一ナルニ  
但清濁アルハ別ノ所カ未詳



氣形 **おほ**

**陽神**

指伊弉諾尊一カミノ訓リ  
鏡ノ訓ノ中略之ト云サハ斐々傳

**おほひるえむら** 大日靈貴

天照太神ノ御事ナリ

**おもろえ** 面足尊

天神六代土徳神

**おほあむむら**

素戔尊ノ子

出雲大社神ノ又大和又日吉何モ同神也ト云凡異名セリ大國主。大物主。國作巳貴。葦原醜男。八千戈。大國王。顯國王以上七名也

**おほやまづ**

**大山祇**

又一一積氏古事記ニ作大山津見  
伊弉三嶋撰津三嶋伊弉三嶋一躰之神

**おほんぐ**

**祖神**

又御神トモ

**おほきき**

**大鷦鷯帝**

十七代仁徳帝

**おんき**

**人王**

又大皇又元后又玉字斗モ但用ル

**おほえれ** 大兄王

又やまゑの  
おほろえの

ワ山背ノ一氏ニ系図  
日用明聖徳ノ一

**おたふの**

**大塔宮**

後醍醐院  
第四皇子

**おんあは**

古書院ノ法皇トアリ不詳位ヨリ下居玉フ何モ同然  
見千神皇正統記太平記紹運録ニ第六皇子トアリ  
古書院ノ法皇トアリ不詳位ヨリ下居玉フ何モ同然  
ナレシ但旧記院ノ字ヲオリ井ト訓ヌ猶シ人ニ可尋

**おんあは** 太政大臣

作臣俗

**おんあは**

**大宮人**

**おんあは** 大臣

おんあは又おんあは  
この一殿

**おんあは**

**興風**

藤原氏正六位相模塚道

成子或説下總權守  
正六位上治部少丞

**おんあは**

**和尚**

トモ

**おんあは**

**公民**

旧事記ニ日本神代卷ニ百姓ノ二字  
上宮太子十七个条ニ此民ノ二字

**おんあは**

**妾**

声セフ遊仙窟  
ニラシナゴト訓ス

**おんあは**

**童男**

及音ノ訓

**おんあは**

**御曹司**

作御俗一ハ局ノ名ノ幼少  
ナリヨリ部屋ズミ心カ

おごこ

男 作男同とのこ  
ノ時ハセナリ

おとこびや

侍従 又侍兒トモ  
又侍者トモ

日本紀ニカ  
ガ千ト訓ス

おさめ

專 日本紀ニハ一領  
氏又長女トモ

皆老女ノ義ノ八雲抄ニ  
下女ニ字之用処ニ見ルベシ

おろこ

伯 又親又長可依  
用所ニ

おきれ

おきれトモ

翁

又叟日本紀ニハ老翁ノ二字又老公氏  
玉篇註ニ老稱也ト

おきまびこ

古老

遊仙窟及土佐日記ニモ又日本紀ニ老宿  
トモ附おきまびこトモ老人おひつご氏

おほぢ

祖父

又王父トカク  
平人ニ王父氏云

おかむ

祖母

中路ノおむ氏  
俗ニ云むむ或

書ニむむ不用  
又むニ出

おや

古訓おほや

親

オマコノ時ハ  
トナリ

おさかひ

おさかひ氏

稚

今案ニおさかひ  
此義口傳ニ

おがゆい

おがゆい氏

拇

玉篇註ニ  
曰大指也

おごかぬ

頤

作頤俗今案ニをこがい音ウ立ル蓋  
ト云マ附アウと云ぐおぬ

おらごこ

亂髮

千金方ニ上  
字作亂俗

おけつ

瘀血

おびー

脇

又おびろトモ須俵註曰  
腰左右虚肉所也ト

おほくこ

狼

又狼古書ニおほくこ氏アリ  
源氏須ナ卷ニおほくこトアリ

おほぶつ

麋

大鹿  
ナリ

おほつり

遊鷗

字書註ニ形似  
雞大ト有

おがとろごり

大臍鳥

万葉ニおがとろごりトモおほとろごりトモ此鳥ニ行  
きおとろごりトモ

おろり

大蛇

八岐  
日本紀ニ

生植 おほぶつ

茶

莊子ニ狙公賦テテ曰朝三而暮四衆狙  
皆怒日然則朝四而暮三衆狙皆悦ト

たほたけ

淡竹

順倭曰唐韻云一

おつひらり

生櫓

字書ハ自生櫓歌書ハ再生櫓

附行つるきき 一草木

おくて

晚稻

又枝を称ノ時をナリ

たほたけ

食菜莖

因經

たきれぐさ

白頭公

是シ菊ノ異名ト云本州ノ一別草ナリ

おがむこ

芣苢

詩經又車前ト云車又作葛

おほえと

黃精

一名野生薑ト云

たほびり

葫蒜

五辛ノ其一也凡五辛ハ大蒜・薤・葱・蘭葱・興藻之又異説アリ

おのひぐさ

思草

龍膽草ノ一ツ云

たぢりみ

稀莨草

附ウケリハ

蒼耳トカク此草説々アリ爰ニ載ル官道ニ考

おとこ

藜蘆

又老母草トモ

たほみぐさ

葇若

毒草之本州具其實不生花葉此葉則たごこ近世呉興ハ沈穆者撰洞詮一部以載烟草一名思

想者是

おろひ

萊菔

下字或作菔訓母大根

おんを

萸花

又萸芝凡俗ニ尾花ト書古今物名ニ

たほぐさ

菝葜

トモ順倭ニ

たごれ

於期菜

本朝式ニ古書ニハ

をがアカナ

おぎ

萩

附おぎれノ聲おぎのれノとぞ

上風たぎれノ上葉をたぎれト戸是ハ在大内古今物名ニト有難用

澤瀉

呼音爲菝名順倭澤瀉ト書ナ井ト訓ス又慈姑ニ字ヲヨム

おとだ

御膳

又飯字枕草子ニおとのみとちこ

飯炊

又ア井カシク氏

服器

おほみき

御酒 又白醴 同訓

かこあがり

妝 又粧

おび

帯

作帯俗又紳訓又多び古語拾遺ニ常ニクルト訓スヒタ  
ナラビノ時と古歌ニ出ルルものとしてありひつらとひ。東  
帯色目曰有文シハ隱文ノ帯也有文巡方ハ節會行幸拜賀ノ  
時用之飾。釦螺鈿釦ニハ巡方ヲ用ル之又有文靴帶ハ巡方九靴ヲ  
兼タル帯ノ但節會行幸ニハイタク不用之。外刷之時用キナリ  
行幸ニモ帶胡録ニハ尋常讀事ニ用之。時繪太刀ハ無文靴用之

おほみき

大帷

近代爲衣文用之冬ハ白夏ハ紅染是シト下ノ下ニカサ又  
夏ハ汗トリト成テ古クモ著スル之。俔老香染之束帶色目

おほみき

柩

須俵註曰衣  
前襟也

おほみき

大口袴

須俵註曰  
一居表袴

おほみき

綱

須俵  
ニモ

おほみき

綾

須俵ニ出又老懸  
凡束帶色目ニ

冠具之野俗志トリト  
云又如のれを正訓ス

おほみき

條

鷹之具須俵  
又のれを正訓ス

おほみき

筵

作筵俗常ニ引ヲト訓ス史記ニ席ノ字日本紀及源氏此訓ア  
リ御寢所ノ大和物語云例レ引御座ノ又萬水堂

一帛ト書テおほ  
ひとのト訓ス

おほみき

御頭梳

古書ニ

おほみき

鞞鞞

一字ツ、モ用太刀ノ具之又メスキ  
ト訓ス今案ニ不詳

おほみき

御弓

万葉ニハミタラフト訓ス又多羅枝最初ハ多羅樹枝ヲ  
以テ作弓故ニ云字書註曰黃帝臣揮作之ヲト  
漢王、劍天下欲乱時者倒臥占吉凶之間故ニ  
引ト一傳來又御帶刀ト書テモ同訓ナリ

おほみき

御博士

おほみき

和卓

常ニ云  
折敷

おほみき

源氏切灯其室ヲ云之  
おほみきトモ

おほみき

官幣

旧記ニ

おほみき

白粉

須俵ニ云ふに  
ト訓ス又云ニ

おほみき

太麻

神道ノ  
具

おほみき

桶頰

鏡ニ  
云

おとびら

源氏三三三

折匱

玉篇櫃ニモ作ル俗ナリ

おほこ

檐木

野人テモホソト云支那語也難用

おさ

箴

機器之新古戀ゆいの麻のさしあもむさをあらしこ

おが

大鋸

杣ノ器ナリ

おほゆこ

弩

弓ノ古史考曰黃帝作也

おとあ

燈明

須俵ノ訓ナリ

おけ

桶

小ト云時ハをナリ

おい

今案ニ木ハ

笈

字書註曰負書箱也世ニ笛ノ字ヲ用笛ハエトラト訓ノ養蚕器ナリ

おほごこ

櫛

周棺者ノ

おんぼ

虎子

又斃器器皆須俵屎臭也

おもづ

鞆頭

須俵云馬絡頭之又鞆かむがに

おんがら

面楫取

親行カ書出

おんげ

欄干

又一檻トモ常ニ音ヲ用

おんが

大船

作船俗凡大ヲ船ト云小ヲ

雑事

折

たをるノ時ハをナリ

おんむ

拜

作拜俗又禮

おほむとひた

大直比歌

神樂曲之古今集ノ一初巻ノ此始にカクニ云と云くたのささつめ日本紀ニ下向はみすつめ代まで

おんさき

生長

又生前也又小大氏又おんさげト訓ス源氏相産ニ

おんれさひ

閑

翁おんれさひ息子ト云カ常ニツカト訓ス行平ノ歌をさひ人

おほわけ

公

キニト訓スレハ人倫ナリ

おんたが

惜持

おひもふ

老過

又過老ト書テモ同訓おひもふ云云此相と

附おひさ

おん

おん

又おん

古書見在

むひらくは月日いそしき名川俗ニ苦或ハ一落共ニ不詳  
愚案初ウ并等と相通シ終手老主相通ス生老初終心カ

おりくぐて

下榮

新田北のまわりとてあぐ等ナリセミの  
をうとくノ時ハをく蟬織延トカク

おりたら

居立

下ノ字起用一田子等シ上字ヲルトヨム時と又下書  
時をヲ用一多シ壁更ハ丹ぬに地思ハとれハ部と又於食

やき丸のふと我  
をれハホシ

おほのふと志關自宣旨  
源氏  
ニモ

おきみずか

直夜姿

源氏  
ニ出

おほむとじ

大連

昔左右大臣ノ  
一ツ云ニナリ

おほむわもび

御遊

平人ニ云  
源氏ニ

おほお

大炊

頭助ハ唐アリ  
宮内被官

おろふ  
おろふ  
おろふ

思

又念又おほめル一召或一食用但倭語又万葉志ニおほめル  
とれおにいらさぬにおほめりて磯城嶋日本国介何方御念食ト有

又ちりおこれ一起  
又ちりおどり一同志

おほく

雄拔

おろく

以爲

おもへら  
用訓ス

おほへ

爲謂

おろんこれ

惟以

上二字ニテモ  
又意者用

おろひく

慮

おろひやる

想像

おろ

可笑

作笑俗  
ナリ

おも  
おろて用

面

作面俗附おろておせ一伏又おろておろ一發又おももる志一煩  
又おろろ一白又おろかろり一變又おろさけ一影或自形用或

化ノ字ヲモ用世ニ傍ノ字ヲ用未考出所一又之ハ此ハ水一又ニこの  
おも度一又たのし田一又そこ外一又このし此一又かのし彼一

おろて

生立

又植長  
トモ

おほす

駄

又役又課皆  
用所ニヨル

おもほどり

作色

又温色也。本紀云怒顔

おもん

研

葉ヲオロスナリ。上ヨリ下ヘオリス

時ハ降字  
又下字

おもほし

大前張

神樂歌。其歌名

大宮人。何介波形。木棉四手。前張。階香取。面白。井奈野。和支母子。但震筆本。大宮人。由不志天不被載之。附こさいなり小。薦枕。閑野小。官震筆本。作志都。又小菅。二字ナレ。儀等崎。同本無崎字。條波。殖春。角總。大宮。淺田。蚕震筆。蟋蟀。二字千歳。早歌。此音震筆。雜歌。被載之。由拾芥。

おもん

御

おもん

穩

訓ス紹巴ノ書ニ

令一ノ字ヲおもほときト訓ス又枕草子ニおもほとげトアリ

おもが

釋奠

孔子祭也。二月八月上。丁日行。本朝ニテハ文武帝大元。年ニ始。年中行事。曰。於大學寮。被行之。明日獻胙ト

おもほ

大

又おもわね。炊寮おもほ。このおも。宿直。此類多シ

おさく

長々

附こさ。れ。おも。里。多。おも。舟。た。おも。田。か。おも。さ。看。督。一。に。こ。き。此。おも。て。カ。一。等。又。優。ノ。字。ヲ。オ。サ。ク。ト。ヨ。ム。日本紀。又

隨分ノ二字同書ニ又治字左傳

落

又墮又零

おもひ

趣

おもろけ

不隴氣

おもろくし

敬愕

又恐懼也。又驚々。源氏夕顔。おもろく。ち。ち。おも。ろ。く。し。か。う。う。おも。れ。を。おも。ト。アリ

おもふ

覆

又掩。又おもほ。れ。ト。訓。又。ち。ち。おも。ほ。れ。打。一。又。そ。ち。ち。おも。ほ。し。天。一。馬。内。侍。おも。ほ。る。ハ。おも。ほ。れ。ま。る。ほ。ろ。く。おも。は。れ

おもひけり

助及

源氏ニオトナレキ心

おもひ

起臥

又おきり。れ。一。別。又。あ。り

つぎととき。曉。此時をナリ

おもろ

興

又發。同。カナ。シ。又。起。用。所。ニ。ル

おぼろく  
おぼろく<sub>正</sub>

恍惚  
ホレタリ  
正訓ス

おぼろく

溺  
おほル  
トモ

おきく

行糶  
おきろ  
トモ

おきく

懼  
ヲソレノ時を  
心註中ニ委

おろく

退出  
又まかて<sub>正</sub>  
源氏ニ

おろく

境節  
又時節<sub>正</sub>  
又折<sub>一</sub>正

おろく  
おびて

佩  
又帶太カラ  
ハクナリ

おろく

覺  
作慰同又万葉ニ  
所念トモ但是

ハ君ノ御オホエ不淺  
ナト、云時ナリ

おび

惜  
又恪

おふ  
おひ

負  
或作負又作員非是別字又擔タキ、ラルト云時と  
附るに、おふ名一又のろひおふ咀一等ナリ

おひせ

仰  
作仰俗又命  
又課但用処見

おひせ

阿  
諂ノ義  
ナリ

おひせ  
おひせ

勅  
本字勅  
日本紀ニ常ニ  
コトナリト訓ス

おひせ

同  
又作  
全

おちろく

零落  
又落  
日本紀ニ

おちろく

納  
又治用外ニ  
又イルト訓ス

おんす

御坐  
坐作座非ナリ座ハ死字坐ハ  
活字ナリ用所アリ

おほし

多  
作多同字書ニ  
大有又衆也

おほし

夥  
作夥  
同

おとろく

下居  
又坐居<sub>正</sub>ヲルト斗ハと古今詞書ニ本の法におろく  
又東鑑廿八ニ惟鳥オリ井ルト云ニ集ノ字ナリ

おもと

無面目  
無面ト斗書ハ非カ伊物ニおもひてつゝなるを一又源  
氏玉カツラニおもひてト有ハ面ツヨキク巴抄ニ面ノ字バカリ

おろく  
今案ニせうご

擁護  
作護俗又  
音ヨウ

おろく

癩病  
又左傳ニワ  
やニ正又やニ正

おろく

無奥  
作奥俗おろくハ訓ナリおろくニ相通ス  
声ハアウクニハ徒然草

おほろく

大都  
又凡ヲヨソト訓スル時ハと  
大概又大旨<sub>正</sub>又大底トモ



たほげり

無大氣

吉水ノ和尚にけるくろきを此  
たみくおにふかれトヨメリ

おひご おひご

史 人ノ姓以下  
準之

たほおぢり

大辟

たほぢり

道田

おほぢり

路

おきまが

息長

おさうぎ

大佛

たさうべ

刑部

おちち おちち

大内

たろ

於呂

おさへ

長部

おうみ 今案ニを

麻績

おほがうり

大河内

たさご

他田 又長田ト  
昏モアリ

たふご

首



久変久変く変く  
又具変々

直坤 くえり

九曜

羅喉星。土星。水星。金星。日星。火星。計都星。月星。  
木星。巳上九星也附七曜。貪狼星。巨門星。禄存星。文曲

星。廉貞星。武曲星  
破軍星七星是也

くわうわん

光陰

本字光光畧  
晝夜ノ光

くもまら

雲條附くもれー水尾

又ー水滸古今雜云川ノ  
こたはてくるまれハトアリ

又くもねー井又くもねのたにー庭 大内ヲ  
云

又くもれおりくー下掛

伊物ニ又くもれおりかつ  
氏附くもれとてー天涯

くろえん

火焰 燄箔皆同  
作箔俗

くわうせん

黄泉

ヲサスくわうト書非  
日本紀六ヨモツクニト訓ス

くげち

一若路

又實路尾是スケ  
アノ時カクベシ

くどめぢ

苦集滅道 洛陽

東山ノ麓ニ下学集  
ニクメチトアリ

くさいらう

回廊 宮社等ノ

くらぶごち

藏人所

山洞及大臣家ニアリ或云殿上ノ次間布障子ヲ  
隔テローアリト又枕草子ニくらぶごちト云

くめぢれう

久米路橋

大和名所大名寄ニ信乃トアリ但兩國ニ同名アル  
カ新古ニいかりせんくわられくのちそくニ

くらねやト

位山

飛驒名所又山城一条ノ北通ニ惣王御座所ハ一ト云  
ト一説ナリ拾遺賀ニくわんまてほけの杖なれハ

くま

國栖

又作国櫛ニ芳野在名平家物語ニ吉野ノクスモ不参トアル  
ヲ彼所ノ名物ナレバ葛ト心得タル者マアリ芳野ノ

一者應神天皇ノ御宇

ヨリ例ニ元日大内ニ参ラユ

くわうそい

黄帝

名軒轅長於姬水ニ因テ  
爲姬姓ト土徳聖王也

くわんそん

観音

有六ノ一ノ千手ノ一正ノ一馬頭ノ一十二面ノ一ト  
准胎ノ一如意輪ノ一也是配六道ト云

くわうかうそん

光孝天皇

五十八代帝仁明第三  
御子号小松天皇

くわうめいこう

光明皇后

聖武  
くわうたいこう

祖母又クワウコウノ皇太后宮ハ天子御母又クワウコウ

中宮ハ天子后ノ都テ是ヲ三宮ト云ナリ

くわう

公方

北山殿以來將軍家ノ号トスト云然に太平記ハ  
高氏及義詮ヲモ公方ト云其前十卷ニト一字見タリ

くわい

公卿

撰政関白及三公是公ノ散位及三位  
已上是卿ノ職原ニ又順倭ハ是ヲ器名ト云

くわい

閻魔

伊弉諾  
子ト云

くわい

冠者君

源氏ニ董ノ  
無冠ノ時ト云

くわい

徒御

車ヲマル  
者ヲ云

くわい

水雞

又クハニニ  
鳥順倭註ニ曰

貌似水雞能食毒故以爲之トアリ然水雞与毒鳥別鳥也  
俊頼ノ哥ニテハ海をたたくくあをれをとんまり

孔雀 別録曰異名越鳥此鳥尾初春生  
四月後凋与花俱榮衰因雷子ト

鶺鴒 頰倭ニ又白鳥也又天鵝也今案ニクハ  
是ヲカウクトリトスルハ非カウハ鶺鴒

郭公 倭訓ホトギス頰倭ニ鶺鴒ノ  
二字ホトギスト訓ス此鳥異名多シ

鯨鯢 本艸不見五音集韻渠京切大魚雄曰鯨雌曰鯢トアリ  
又四聲篇海音擊一鯢魚王也雄雌ノハ字彙ニモ

蛸 俗訓  
又切蛸頰倭註  
曰八月鳴者也  
くまじい 蛛網

蛇 俗訓  
へビ

桑 作桑俗附くんこ子蚕ノ一ヲ云万葉ニサノハ  
くまの付ハくんこニテ此歌ヲ取テ伊物ニモ見タリ

果木子木 下字ニ又或書ニ作果  
栢木俗クワリト云

葛 作葛俗異名雜齊本經アリ  
又鹿藿別録ニ附クズカウラー藟

種 源氏  
ニモ  
くさのりえ 草萌

懷香 作懷俗又興葉也五辛ノ其ニ古今ニ貫之ニ一時也  
又くさのりえト訓ス異名地栗沃写  
ノ類ノ附カるるぐんぬ慈茹似大荒

烏芋 又くさのりえト訓ス異名地栗沃写  
ノ類ノ附カるるぐんぬ慈茹似大荒

萱草 訓ワスレグサ頰倭ニ又源氏ニ  
くさのりえト云是漆物ノ一ニ云

葎香 或作葎倭  
訓カミドリ  
くまじい 黎豆

鬪草 古作鬪頰倭註曰五月五日  
有鬪百草之戲

くれのあわ

吳藍

順倭ニ或、紅藍ニアリ本朝式ニハ  
紅花則くれのあわノイヲ云

くもんごう

欸冬

本經ニ名欸凍フウキノタフイノ山吹ニ用ルハ非マズキハ  
醜醜ノ一ノ誤、綻暮春風トイヘル却テ作者ノ誤カ

服器 くこと

組

クニト  
斗モ

くらゑ

志餅

鷹号ニ  
云

くさりらわ

糕

順倭ニ凡三月三日、昔周幽王設河上曲水宴或人作テ  
貢王嘗其味為美則獻宗廟周世大治因茲後人三月三日  
進干祖靈矣

十節録ニ

くらゑ

果子

作菓俗倭訓  
コノミ又クダモノ

又以五穀履之作ヲ  
にえはかり執一ト云

くらゑ

懷紙

連歌  
ホノ

くまごう

欸狀

官位ヲゾミ或ハ許訟ナトノ  
時ノ狀ノ上字クワシトハ子ズ

くれのあわ

紅

又緋又緋但色ノ濃ト薄トノ文字ノ訓ノ心ハ生植ニアル吳藍  
ト云ニテ明ノ附カクくれのあわノ韓一又ナルをのりをこー下濃又ク  
れものよりむらぬ一張袴ハ祝ノ時濃ノ張袴夏冬同製ノ時ハ生ノ紅  
ノ張袴冬ノ衣ハ八領或六領或五以下此上ニ袴ヲ著之夏、單重ノ  
上ニ袴ヲ著ス近代ハ小袖ヲ着用但引繕フ時ハラシソヲ著ス  
物具ハ冬單夏ヒツヘギ表衣モ唐衣小腰ヒキ腰等時著之也

くやうぜん

公羊傳

書名也子夏門人ノ一各高作春秋傳是也合左氏  
傳穀梁傳鄒氏傳夾氏傳謂春秋之五傳鄒夾二氏

之傳今ハ  
ニシ

くづ

屑

物ノ餘ノ説文ニ作屑  
字書注ニ碎也ト

くぬえの

熊膽

藥ニ  
用

くぬえの

薰衣香

源氏ニア  
リス虫

ニ百歩ノ衣香  
ト云アリ

くハ

鍬

説文  
作鑿

くんろ

熏籠

順倭ニタキモノノコト訓ス又篝ノ一字俗ニ云フ也  
或作臥籠或フジゴ富士籠共ニ下学集ニ見タリ

く

鬮

クジトリニ訓ス右公門今公門玉篇ニ又神前ノ御一モ是ナリ  
異朝ノ神前ニ環玦ヲ置或竹筴ニ云環玦ハハグリ之本朝ノ御鬮同

くうごう

笙篔 頌倭ニ多クゴトト訓百濟琴ニ くさげこ

草蓐

くまんいり

瑠璃 茶碗等ニヒリヲ云或作寛宥 くぎわう

供郷食 頌倭及下学ニ作公卿

くまんじやう

光明砂 朱砂ナリ くお

杙 字彙ニ又作杭非是ハウダナト訓

くまんじやう

管城 筆ノ異名ノ霜毫氏又丈毛氏云殺名曰秦將蒙恬所造也又爾雅曰不律謂之筆是周公時已<sub>ニ</sub>有筆矣

くまんじやう

鞍屝 附々<sub>ニ</sub>あろ<sub>ハ</sub>脱鞍又々々<sub>ニ</sub>排<sub>ト</sub>

くまんじやう

花瓶 世ニ<sub>ニ</sub>と<sub>ハ</sub>ひんト云来ル くはん

轡 又銜又頌倭ニ韉輕<sub>ク</sub>ろ<sub>ク</sub>むづ<sub>ク</sub>氏

くまんじやう

挑 又鱗 くだく

くまんじやう

噬 又加又呀 くらひて

蹇 佛足<sub>ノ</sub>又同訓ニ折

くまんじやう

剋 又喫トモ一緊系氏 くひちぶ

食 又喰又舗

くまんじやう

喰初 子生テ百廿日ニ當ル日行<sub>ク</sub>之<sub>ク</sub>日ノ吉凶ヲ不擇女子ノ一ハ女ノ役男子ノ一ハ男ノ役其規式家々ノ流義 くらひて

くまんじやう

靈異 日本紀ニアリ上字作<sub>レ</sub>靈同作<sub>レ</sub>冥俗ナリ くらひて

くまんじやう

繰返 アリ故ニ省<sub>レ</sub>略<sub>ス</sub>之<sub>ラ</sub> くらひて

くまんじやう

覆 又顛トモ

くらわ

位 又同訓ニ祚但天子ニ云一ハ座<sub>ヲ</sub>居<sub>ク</sub>又々々<sub>ニ</sub>お<sub>ハ</sub>早源氏ニモ出タリ

くらわ

位 又同訓ニ祚但天子ニ云一ハ座<sub>ヲ</sub>居<sub>ク</sub>又々々<sub>ニ</sub>お<sub>ハ</sub>早源氏ニモ出タリ

くらわ

位 又同訓ニ祚但天子ニ云一ハ座<sub>ヲ</sub>居<sub>ク</sub>又々々<sub>ニ</sub>お<sub>ハ</sub>早源氏ニモ出タリ

雜事

くせまひ

久世舞

下学集ニ俗曲舞

くきわし

究竟

俗ニ云クツキマフ

くせんごう

巻頭

又一軸歌書等ニ云

くんごう

勳功

イサヲミト訓ス

くせいごう

會同

諸侯ノ會合ヲ云論語先進篇ニモ此字出タリ

くじんぢやう

灌頂

天台真言ニ執行ス之ヲ又勸請ノ時ハクンシヨウ神佛ニ云

くやうぢやう

供養法

三密六度ノ行法ト云源氏明石ノ巻ニモ見タリ

くゑんぢやう

凶會日

陰陽家ニ云十二月ニ定ル凶日ニ此日ナス一末不通ト云

くじんぢやう

管領

鹿苑院殿ノ代ヨリ執權職ヲ一ト云其前ハ執事ト云シ之又官領ハ殿上人ノ頭ヲ云ナリ

くゑんぢやう

委

又精

くゑんぢやう

寬宥

くろく

苦

又困窮ニ字ミシト書傳有

くろく

口號

くはう

口入

下字声ニラジラ

くはう

口惜

又朽トモ

くじ

公事

訓おぼやけト云

くじ

過報

又果トモ

くわうぢやう

荒涼

アレタルト云又過言シト云

くわんぢやう

企

くわんぢやう

悔

くわんぢやう

狂

くつごうれ

窮屈

又類階ト云又類ノ字

くつごう

火急

下字声キフ

くづらぢやう

崩

又類

くづら

工藤

人ノ姓以下準之

くまごえ

熊谷

下字ヤナレ氏トヨミ来然モ喉音ヲ一ト云又くぬかぬ時ノ井

川

三

くぬせぐ

株河 人ノ姓

くむらぎ

葛原 又ノ野又ノ見

くんとさき

桑崎 一嶋一名一田等

くつふ

栗生 俗作栗

くらとん

掠椅部

くがい

久貝

倭字古今通例全書卷五終

倭字古今通例全書卷六

や

也変や変マ又俗屋変を

自也至天

乾坤

やよひ

彌生

一切ノ草葉芽至此月マ生ズ故ニ云フ一ト也

やまけい

山陝

頃倭ニ山ノ一字ヲ訓ス兩山ノ間ヲ云古今誹ニ山のふちをくぬるるるを云

やえのちやち

八重鹽路 中臣

やいご

嚶

頃倭註曰不耕而火種也又火田

ト書テモ同訓之同書ニ俗作畑ハタト訓ス字書不見或人云倭字也又順カ云續搜神記曰江南畠種豆一曰陸田和名八太介又曠

同訓同書ニ

やまご

潺湲

やまごりし

山下風

オロシト斗ハ木之親行云ミマニヲロシハをト又云マニヲロシト

やうめいもん

陽明門

大内十二門其之

やえがきや 八重籬宮

昔出雲國

素盞盛鳥棲玉所之尊詠曰やえがきや

やうかい

行馬

周礼天官又註曰橙桓又字彙若今行馬以爲衛云云世ニ虎落ノ二字ヲマラヒトスルハ非ク是ハモガリト訓ス又矢

末ト書ハ充字ナリ

やうらのたき 養老瀧

美濃國本巢郡

座井南ノ一ノ年中涌出ノ由旧記ニ

やえやま

八重山

相州名所古歌ニあそ

かう此冥の屋之山下アリ附屋えたる山一山非名所一只雲ノ幾重モタツ山ヲ云トシ

やまねの

山井

近江名所又陸奥及相州ニモ

やーほのどろ

八鹽岡

山城名所新勅ニ

やうしなま

八幡山

中ノ字作幡非クハ秋ミ米字彙註大和ノ初瀬道所ニアリ是モ紅葉ノ名所ナリ又山トモ

やとよろづね八百萬神

中臣

やうせいめん

陽成院

五十七代貞觀元年

十二月十六日降誕天曆三年二月十九日崩一ノ指名所則大炊御門南西洞院西ナリ彼院御降誕ノ地ナリ

やうい

楊雄

又古ノ射人養由ニモ同カナク漢王莽力大夫准易テ大玄經ヲ作ル擬論語而作法言皆可笑傳在前漢

書八十卷ニ

やうきい

楊貴妃

唐玄宗寵女

やう

楊補之

元朝人得墨梅

やをん

八乙女

神樂

やも

鰻夫

順倭ニ附マニメ寛カ

やあしご

玄孫

やうらび

八十氏人

凡百姓ハ公家ニ二十氏武家ニ八十氏アリ依之モノフ



やうー

養子

猶子時兄弟  
子ヲ云礼記

やまごらねをろのくらた山鳥雄呂初尾

やまかり

山鶴

鷹鳥ニ云附くぐり撫鷹鳥ト書又とろがかり青鷹鳥ト  
カリ年ニヨリテ名カハル又異字アリ爰ニ記スルハ塔

廣雅書

生植 やーと

椰子

附やまごらね  
椰子杓

やうむい

楊梅

訓マニ  
モ、

やーまり

線豆

頃倭ニハジんごうト訓ス誤カ  
ゴドウハ文字豌豆ト書又ふ

やまあお

山藍

山ニ生ズルア井ノ附やまあお  
のそてーし袖

羊羹

下字声カウカニ唐音ノ附るらん敵韻一収るらん  
露鳥揚一又多るらん松露ト又ふらん

やうらく

瓊瑤

玉ノ  
飾ノ

やど

鍬

又  
鑿

やうまろ

陽聲

笛ノ異名ナリ世ニ陽笙ト書ハ非一調以黃鐘  
管候冬至氣適至其時而氣應灰飛此陽氣

動也以此管吹之而成聲此陽聲之始也

やいむ

刀

作又俗又  
鏑同訓

やうき

楊弓

射礼日七月七日唐玄宗与貴妃相共所弄之物之則伐未央宮楊  
柳而爲弓而取太液池之芙蓉而爲矢故号一之或人云弓三尺矢手  
五本ト

やまぐぬ

箎

周礼註曰ハ盛矢器也唐令用胡箎二字  
又唐韻云箎箎共箎前室ノ別訓ハ出

やうど

楊枝

佛書六物ニ出タリ又九条殿ノ  
遺誠ニモ取一ラ向西洗手アリ

やまいん

柳筥

常ニ作柳略也硯短冊鞠冠或經卷ヲ載臺以柳  
作之也下学集目編柳枝作之一尺四方

やいぐ

弗鍊

頃倭註曰  
炎完弗之

やろ

藥籠

今ハ筥ニ  
メ用之

やうら

八目

やまう

八百目

新古ニヤミヤ  
ゆくとんぬれ

やまことと考つ代の附  
やまうらひより一方便

やうらうら

永隆樂

平調  
樂く

やうめいばしけ

揚名介

源氏三ヶ傳其一又やうめいの  
さくらんり目徒然草ニモ

やうせんぼ

永宣旨

やまごゑんきゑ

大和魂

源氏ニ出  
タリ一条

禪閣曰日本ノ目アカ  
シト云心ナリト

やいがり

焼狩

東鑑ニ云毒流  
ノ一停止之

やまひ  
まきま

疾病

一字ツ、モ但輕重ニ依テ用論語ニ子疾病ナリトアリ  
大和物語ニやまひいといふうらぐしひて又土佐日記ニ病者

ト書テマホひび  
ト訓ス

やうどやう

養生

又マツワ  
一云

やい

灸

字彙註曰灼  
林療病也

やうらぐ

和

又融  
又厚

やまひのせ

軒出

車ノ  
ニ云

やうだい

樣體

俗上字  
字彙シ考ニ

作樣モ一ハ  
トナガラニ訓ス

やん

争

イカテカ  
ニ

やまひ

徘徊

又踰躒又休一ハたりやまひハ又ナリ  
やすらふト云時ハ猶豫スル心ナリ

やーあひ  
やまひ

育

又養

やうごう

永却

下ノ声  
カフ

やうぐう

影向

やむごころ

無止

せんごころまきやん  
とかい皆拘音ニ

通テ  
ナリ

やうくし

微々

やらふ

雇

又倩  
又傭

やうやく

漸

マ、トモ  
又稍

やらふ  
やまひ

擯追

追放スルヲ云又日本紀ニ  
マらひやりき逐降ノニ字

六

四

やづめ マツキ庄

矢集 人ノ姓以下准之

やぎふ 一

柳生 又和州添上ノ在名

やまぐえ マシほ庄

守保

やまね 庄

山於

やましが 庄

楊津

やま 庄

山田

ま

未変未変ま変中又満変後又萬變万変月

乾神 まりふ 庄

豆田

日本紀及順條又アハラ植ヲ あくら栗田日本私記

まねた 庄

前棚橋

非名所人家ノ前ニ板ヲ以テ渡シタルヲ云 古今戀ニ詔れりをれまへのなかり

まえ

麻殖

阿波郡名

まうご

望陀

上總郡名

まき 庄

楨雄山

山城宇治郡名所

まね

増井

丹波名所風雅隆博

ま 庄

清 庄

まのね

松尾

神社之秦都理大宝元年

ま 庄

建社ト云此神ハ比叡ノ神一跡ニテ大己貴之新古ニ年代をねれり アウカケマケ

ま 庄

真野入江 江州名所

ま 庄

真葛原

山城名所

ま 庄

慈鎮 庄

ま 庄

松帆浦

淡路名所

ま 庄

新勅定家 庄

氣形 まうじ

孟子

名、軻子思門人亞聖、次大賢也、排楊墨、興仁義、性善、養氣四端、放心之說、發前聖之未發、大功也

天下末世者 也

書四書之一也

ま 庄

儲君

天子ノ太子 まうじ

まむらじれ ますむらじれ

健男 又賤男又益雄氏日本紀ニ大夫氏又丈夫氏但用所ニヨルニシ

まことさい 離孫 順備ニハむまことといアリ釈名目甥子ノ附才とめい般孫トカク

まらうご 客人 又賓トモ日本紀ニハまらうごト訓ス

まめゆき 實夫 伊物ニママツ 密夫 傍夫トモ俗ニ間男

まひぐめ 奴女 舞姫ナリ またうご 真人 又全人氏氏ニ云時ハニツド

まうりく 盲目 上字作崩同 まうれい 亡靈 又一者

まのうら 正面 同訓ニ真向ハカブトト云 まへかき 髮髻皮 額髪ナリ

まらうこ 猛虎 上字音又 まらうごがふ 乾鵲 未考出所

まらうを 魴魚 一名鱒魚共ニ本州ニ出タリ作字鱒俗ナリ

まらうがえ 生植 松枝 上字作松同 ますやねき 十寸穂芒 又またそふ

ま 比すきハ文字 麻草穂薄 まを 苜蓿 又苜

ま 服器 鞞 詩經ニアリ又鞞鞞氏 まんぢう 饅頭 上字又作饅字彙ニ

ま 又東鑑ニ十字トアルハ一ノ一ト云俗ニ云ヨ子ニシテウナリ書言故事曰蒸餅十字瓊肌云時珍綱目所録蒸餅是之附とまんぢう土一是ハ墳ノ一ノ朱子曰地形如一ト

ま まごをねらも 間荒衣 下布ノ又間遠衣 まのうら 最赤色

ま まひけりら 雲冠 順倭曰唐令ニ云景雲一儷八人五色ノ一

まもずり

玉篇註曰以燒烟  
鬚眉也又代黑  
諸兄公所撰也但京極抄曰諸兄薨後歌多  
載之似家持卿之所註尤以不審也云リ  
萬葉集 二十  
卷攝

まぶせかみ

眞經津鏡八咫鏡  
訓ス魚ノ板ト云心マ  
又生膾箸モ同然  
まきさゑ

姐 別名切机東鑑  
所々魚ヲニナト

蒔繪 附海きさの  
此だり

まいり

笳 字彙注曰竹笳以寒舟也刮取竹皮爲ノト云云  
又多識ニハ敗船笳ト書テ子ノコソト訓ス

壁帶 家具ノ  
順條

まつり

抹香

まどぬ

圓居

兼宗歌ニウハル之少此あり  
まどぬありぬまは又一坐トモ

まい

舞

まみえ

目見 又め

まさりがや

無數大可

又まさりがやトナリ  
云時ハ相字ナリ

まほむひた

眞帆人

ウルハニキ心ト源氏巴抄  
又一ホ眞面ノ字

まどかひ

禁呪

史記ニ厭當ノ二字日本紀一ニ禁厭又素問ニ移精  
変氣論トアレハ以前ヒサニキト見ヘタリ

まごふ

纏

徒黨ヲ企ルヲカフニスルト云時此字ニ蛇ト云ハ蛇字  
又海ヲウハ順又思系又和順皆日本紀ニ出タリ

まつげ

不破

日本紀ニ又同  
訓ニ不纏

まいり

賄賂 一字ニテモ又  
あまのあは

まぎらふ

續紛

一字ニ  
テモ

まうくる

設 又儲

まうす

申

又言又謂氏以上日本紀ニ又告書經ニ古今  
陸奥哥ニ云々人ニ云々ヤセニ云々野の

まうしてまうさく白雲

日本紀

まうる

めがら

廻

又回作  
廻俗

海ドラふ

參

日本紀ニ  
又交又雜

海ごひ

まうぶ五音ニ

轉

朝一ター等ニ  
又臥一又まごゆ  
伊物まうまう

迷惑

一字ニテモ万葉ニハ  
乱字ヲヨメリ

まうまう

貧

ひそ

まよひ

まごひ

參上

古事記及  
源氏ニモ

まうで

詣

三訓五音相  
通又參

まうのかり

前

作毒  
同

まう

先

さきだら  
さいだら

まかりまうし

辭見

日本紀ニ又源氏朝顔又總辭見ニ  
モ出タリ俗ニ云暇乞ノ義也

増

枕草子ニまいてそくそれ  
けしきニ又土佐日記ニモ

まいて

誑

又たごり  
トモ訓ス

まうざう

妄想

附まうまう  
一執

まうご

妄語

まうら

欲歸

日本紀ニ

まうご

進

又上  
又奉

まうやう

魔障

まうご

松仕

人ノ姓以  
下準之

まう

蔭田

まごえ

馬越

まう

前田

け

計變討變け又介變々  
又希變々又遣變々

乾坤 **けふ**

今日 上ノ字  
斗モ

**げんせう**

元宵 正月十  
五夜之

**けり**

煙 与烟同作煙俗又唐韻ニ燿字万葉ニ火氣ト書テ同  
訓之附波一水一柳一湯一胸一土一等ナリ

**けいてう**

京兆 洛陽之  
又キ

**げうそちや**

凝花舎 大内梅  
壺之

**けふ**

狭布 奥州名所  
又服器ニ

**けいれう**

飼飯海 日本紀ニ  
ニハ筍

飯ト有又けいの申る氣比社神名帳ニマリ越前、同角鹿ノ  
名所是仲哀帝之靈之又いささけのつと号ス去来紗別  
神ト  
書

氣形 **げうりゅう**

堯王 作堯俗通鑑曰一為天子年十六而  
立以父徳一王都ニ平唐一云云下略

**けいこうてんこう**

景行天皇 第十  
二代

顯宗天皇 第十  
十四代

**げんじがさ**

脇侍菩薩 佛ノワキ立之前ニアルヲ前侍  
ト云源氏ニモ出タリ

**けんらうぢま**

堅牢地神 浮屠  
云神

**げんむう**

玄昉 又神叡ト云  
俗姓阿刀氏

**けいこう**

嵯山康

晉七賢ノ内ナリ字叔夜ト云文選  
四十三ニ一与山濤絶ト交アリ

**けんこう**

兼好

少年ヨリ天台山ニ上リ学問ス父ハ吉田兼顯トハ  
後宇多院ノ北面ノ侍之彼院崩御ノ後出家俗ノ

時ノ字ヲ用ヒ法名トス和歌所ノ  
四天王トヨバル徒然草ヲ作ル

**げんちやう**

玄奘

法師西域傳ト一三藏  
瀧天録十二卷アリト云

**けうこ**

凶徒

作凶  
俗

**げらう**

今案ニ本字亦臘

下臈

又上一注ハ  
玄ノ字委

けうちう

胸中 俗 作胸

げんく

蜒 作蜚同又蠖 蝮又虫蜒又俗

生植 けいよう

雞雍 常ニム一頭花ナリ 莊子ニ出又一冠ト云

服器 けもんねう

花文綾 織物也

狭細布 奥洲ノ 石物後

拾ニ能因カ歌綿本ハまきまきくくそそちりけれけれれりそねのひひあらしとや

けさうぬ

艶書 上字ヲ豔同又けさうぬノ時ハ假粧文トカク

けいづ

系圖

けつぜう

結繩 古文字ナキ時ナラ

結テ物ノシルシトセリ

けふそく

カ骨息 訓ヨリ

げうせいせき

凝水石 寒水石ノ別名

げせうねう

下乗卒都婆

今ノ下馬札是ヨリキコルト云

雑事 げづる

剛 又判又削髪ヲケヅルハ梳ノ字ナリ又地ヲケヅルハ鍮ノ字ヨシ

けうがう

校合 下音カフ書物ヲクニ考ル

けいせう

擬 又校

けさう けんい けさう

假粧 女人ノ調色

げきさう

現形 伊物ニおん

ちんく トアリ

げんせう

還城樂 舞樂ノ名

げいさう

霓裳衣羽衣

曲ノ名之文選註曰一ノ起於開元盛於天寶也

けびわ

檢非違使

又曰使廳淳和帝天長七年始置此局ニ



けむげう

檢校

僧侶又座頭ニ云。東鑑二十八日河越三郎重負武藏國惣一職也ト

けうまひ

協律

上字声ケフ雅樂頭唐名

けうつう

脇痛

病

けんぼう

健忘

病

けつぼう

血崩

病

けうらん

梟亂

一ハ狂乱ナリ附けう者一首俗ニ云ゴクモンニ掛

けうき

澆季

末世ノ義也

けうゆう

興遊

けんい

氣

日本紀ニ又形勢又景氣又氣幸又色合用所アル

けうよく

樂欲

けらえん

結縁

けあう

怪

けあうト又ト斗ト作怪俗伊物ニけあうハあゝね女トトアリ附けあハ異又同訓ニ下習又トあトニ出

けうらう

氣疎

河海文同訓ニ狂等

けうえん

教訓

附けうけ一誨一化

げんぐし

業々

文選ニ反字一トトカシ

けうやう

孝養

けちめ

結目

又験ノ字伊物ニまけハ切リよモ思れトしけちめ又せぬト云らんありけ

げうに

饒

物ノ多シ云

けうご

曉悟

訓サトリ

げうたう

澆唐

酒不血之ト也又凝雷又下学集ニハ作魚道

けさうどせ

懸想

源氏及伊物ニ

けんやう

憲法

けんぬ

權威

げうらう

下向

一知又一司

けろ

險

又嶮

けうずら

供

又同訓ニ興用処有

けう海ん

憍慢 下字又作憍

げいやう

下焦 又上ー支躰云

げんぢぢ

嚴重

げうたい

凝滯

けがらひ けがらひ

汗穢 日本紀ニハキタナシト訓ス同書ニ濁悪ト二字同訓

けうじ

凶事 世ニキコトト云

けうにせうずら 乘輿

けうせう

狭少

げんせう

減少 作減俗

けうまう

假令

げちき

下直

けうくわう

恐惶 上字作恐俗

ふ

不変ふ変ふ又婦愛婦変ぬ又布変多

乾坤

ふさうあく 扶桑國

又作搏ー日本義

ふうじ

鳳至

作風誤之能登郡名

ふじさん

富士山

駿河国ノ一郡万葉ニ作富慈又中国諸書ニ富田ニ又婦盡又富兒又不盡又不ニ又不兒又不死ニツクル皆

是倭人ノ音ニミカガヒテニス平ソモク倭人此等ノ字ヲ書テ示ス平万葉ニ富士ノ嶺ニ降置雪ハ六月ノ望ニ消テハ其夜降ツク

ふけおれ

吹居浦

新後拾遺ノあけの浦ヲ吹居浦ト云ルハ和泉国名所ノ新勅ニあけの浦ト云ルハ和泉

五ノ紀伊ノ吹飯ノ浦ノ續古ニ格ミヤよこのあけの浦ト云ルハ丹後ノ吹井ノ浦ナリ以上三ヶ所

ふるかののべ

古河邊

大和名所

ふぢあろれ

藤代御坂

紀伊名所

ふんれせき

不破關

美濃名所千載ニあれぬれと云ふんれせきト云ルハ

ふぢえ

藤江 播名所、浦又沖又岸ホ ぶちえ

船岡 山城京一条ヨリ十町程拾

遺 遺ニふちえを此中 になてく妙即也

船井 丹波郡名

ふちえれう

古江浦 国不分明續後拾相摸カ歌

ふちえれ

古柄小野 大和名所古今いり此

ふちえれやま

藤坂山 越中名所續後撰ニむらさきの

ふちえれし

經津主 下總香取神日本紀

耆宿 日本私記

ふちえれ

夫婦 カナヅカヒナシ

風市 灸所ナリ

ふちえ

吟 ノドブエ

梟 訓ニマラナリ世ニ多ク用旧記ニ不存

ふくこう

河豚 本艸ニ出タリ又作一蛇ニ俗フグト云毒魚ナリ

ふゆう

蜉蝣 頃倭ニ云朝ニ生タニ死スル虫ナリト又ひをひト訓ス又ひニ出

生植 ふかえ

古枝 古年ノ枝ヲ云古今ニ枯レキ此

ふよう

芙蓉 字彙曰生於水者曰水一即荷花也生於木者曰木一即秋華也亦名拒霜

ふぢ

藤 作藤俗又累又

佛勝華 作華俗

ふたう

蒲萄 作蒲萄俗也一ハ本艸ニ出タリ一名草龍珠倭訓モカヅラ字彙註曰俗以蒲爲蒲萄字

ふづき

薤菜 多識ニ又仙人草

矢莞 おほぬ

ふうき

路

水ノアミシ山ノニガシ此訓順倭ニ出タリ盤涉調ノ越殿  
樂ニフウキト云モ草ノ名ト諺フ今中略ノフキト云欵冬ト

醪ヤミフキ醪トヲ誤タルモヨシ

ヲト云ニ付テナルベシ

せんごう

豌豆

一名胡豆共ニ  
本艸ニ出タリ

順倭ニ緑豆ノ二字ヲせんごうト  
訓ス誤カ各別ノモノナリ又ハニ

ふぢむく後

藤袴

本朝蘭ノ字ヲ用又ラント声ヲ用テ香艸ノ名ト  
ス然レハ訓ト声トニテ二種ノ艸之不穩新選萬葉

ニハ一トカケリ又源氏河内本ニモ拾芥ノ源氏物語目録  
ニモ一トカケリ此花夏咲テ藤色之○本艸綱目十四  
芳艸類云春芳者爲春蘭色深秋芳者爲秋蘭色  
淡開時萬室盡香与池花香又別也云云ふぢむくニ蘭  
ノ字難用之歌ニ秋咲ヲヨメリ古今ニ貫之るにふぢむく  
ぬきつらんふぢむくらん秋ニ中ニのをほかるとん

服器

ふせんね

綉線綾

織物

ふぢごうも

藤衣

喪中ノ衣之  
浅青黒色

又練衣用順倭ニ又賤者ノ衣ヲモ一ト云萬葉ノ歌ニ  
きこれははるくあまはふりてあも又後撰ニ伊勢の海乃塩屋く  
わ海の衣を惣テ藤ナラ子氏アラクニシク  
織タルヲ云麻衣ヲ黒ゾメニキルモ同然之

ふくあゐ

二藍

染色之四位以下夏ノ下重  
色ナリ束帶色目

ふうたい

風帶

掛物ノ一ノ古ハ風アル時一  
動ケハ掛物ヲハツス其タメニ付之

ぶつきさうり

物忌令

忌服  
書之

ふかひ

拮繩目

鎧ニ  
云

ぶくろまう

茯苓

藥ノ名松露入地ニ千歳而化ニ成ニ一ト  
神仙傳曰五方日服一ト必得仙術也ト

ふえ

笛

風俗通云武帝時立仲所作也トアリ事文類聚云黃  
帝時伶倫作之云附橫一短一太一長一狗一歌一等

又云ふえハ笠籠又  
高麗笛トモ

ふかよそひ

儀

字書註曰整舟  
向岸也

ぶち じち

鞭 又策無假名使或書ふびラ馬ト雁ニ別タリ穿鑿ニ一本罪人ヲセ  
ル器之依テウツト云ヲ拘音ニ変シタル馬雁共じラト用タキ一

ふらひ

篩 作遂同説文曰竹器也又トモ  
トモ訓ス又籩又筴トモ

ふるざか

篙 或作  
檣

ぶんかふ

文夾 俗ニブコト云  
ブコハ文庫ニ

ふるあう

風鈴

夏日涼風ス、時ハ其聲清亮ニノ尤堪聞他日  
掛之ヲハ好事者ノシワザニアラス可謂非也

ふさまきり

襖障子

ふづけ

罾

積柴水中ニ  
取魚也

ぶんばり

規

字書曰一為  
圓矩為方也

ふすぶも

熏草

ぶんごう

分銅

俗ニ云  
フンド

ふいごう

韋囊

又一字ニ  
テ韞又

囊 順倭ニハフキガハト  
割ス俗ニ云フイゴ

雑事 ふうふ

揮

又振同訓ニ  
コ、ロ異ナリ

ふまひ

舉動

俗ニ振舞  
古文諺解

ニ郷食ノ字日本紀ニハ進止ノ二字ヲ訓ス但是ハ起居ノ一ニ云  
又行跡ノ二字是ハ人行ヒ付テ云何モ不簡アルベシ

ふうずる

符

又封氏又緘用所アルベシ源氏物語ニハふんどニテトアリ  
又枕草子ニ云とらとくかてふふんじたらトアリ

ふるしんて

振延

附ぬのひきとて布引延又そでひきとて  
袖一ニ多田れウウとてあく等也

ふるよんひ

呼舟

ふりそり

物息

下字作念同  
訓モ弁ハガシ

ふさひ

祥

相忘スルニ日本  
紀ニ又源氏ニモ

ふまえ

踏

ふいちあう

風聽

フイハ声ノ変ホメキカスル之  
又普謂聽ハ俗言ナリ

ふよう

附庸

一リ臣  
一リ国

ふせり

不肖

不似  
久也

ぶいう ぶよう

武勇

ぶゑい

武衛

兵衛  
ヲ云

ふきやう

府生

左右衛門、  
之唐名衛史

ふりす

副寺

又一使正  
使ノ佐ク

ぶひちやう

佛生會

灌佛日氏又龍華會氏云高僧傳四月八日浴佛  
以五香水灌頂按五香本訛謂青木  
查爲五木香也日本ニテハ推古天皇ヨリ始ルヨシ見干公事根源是釈迦佛於俱毘藍城而出生  
之時天龍灌水故事然氏四月八日ト云ハ周建子ノ正月ヲ以テ云今  
夏正建寅ノ月ニヨレハ二月八日ノ誤未  
ヒサシ可考、遵生八牋第三卷

ふせう

鳥鐘

午時ノ  
調子

ぶんやう

文章

倭書ニハ  
モニサウ氏

ふくゆう

福祐

本声イウ  
附ユキ  
富貴

ふね

不意

ふじゆう

不自由

ふじゆう

無伏藏

世ニ無覆  
藏ト用

ふくう

不幸

主君父母妻子等ニ死別  
都テワザハイニ遇ラズ

ふね

無爲

スルコトナシ  
ト訓ス

ぶさう

無雙

作雙  
俗

ふるこゆう

古郡

人ノ姓以  
下準之

ふるに

深尾

ふくぼく

福富

又一玉

ふみい

府内

船井ノ時  
ふるね



己変コ変丁又古変去

乾坤

ごぎやう

五行

木火土  
金水

ごかうてん

五更天

こよひ

こよわ氏

今宵

今夜ニツ  
假名ニワ有

こんぢく

坤軸

地ニ有  
三千六  
百軸云

こつり

氷 又水但俗之 又凍

こうぎん

洪水 又鴻水 孟子ニ

こふ

國府 又是ヲ夷 都ト云

こほり

郡 又縣ノ字同訓 第十三代成務

天皇五年己亥二月始テ 諸国郡境ヲ分シ日記ニ

こうぢ

小路 又坊又街附 錦ノ姉

等又おほり 大路

こうきでん

弘徽殿 源氏ニハ

これ

近衛 作衛俗所名 又五撰家ノ内

こうもろでん

後涼殿 在大内ニ拾 芥ニ曰清涼

殿西也ト或云清涼殿 北也故ノ一ト云

こうあん

弘文院 和氣氏ノ 諸生別當

為荒廢之地在勸学院北ニ和氣ノ 清麻呂卿建立之云云拾芥ニ

こうざうわん

穀藏院 源氏桐壺ニ内苑つゝ

こうろくじん

鴻臚館 又曰一寺古異国ヨリノ使者ヲ置所ノ一ト云 寮之七条北在朱雀拾芥又源氏桐壺ニ

一蕃 トアリ

こうろく

後架 下学ニ今 案ニ不詳

こうめくじ

興福寺 在南都ニ和銅三年不比等造山階寺 即今ノ一ノ旧記ニ見タリ

こをろとえ

籠江 非名所ニ草生シ木葉ナドニ 埋テ底モ見ヘヌ云

こひせうん

戀瀬川 常陸名所又ノ湊ハ伊賀名所又ノ山ハ出羽名 所名寄ニ又越中ニモ一山アリ名所方角ニ

こゝおれり

古々井杜 伊豆名所宗祇カ云此名所常ニ不用ト然トモ 拾遺ニ顯光函テてゝおれりト云ク

こゝらけり

越路浦 越後名所 在古志郡 ころゝやま 小幡山 山城 名所

氣彩

こうし

孔子 名丘字仲尼晚周之時大 聖人謚文宣王序ニ六經ヲ

こそろ

瞽瞍 頑人之大  
舜之父

こうしや

公主 帝ノ  
女

こうがふ

弘法

空海ノ謚延喜二十一年十月賜大師号、世姓佐伯氏  
讚別多度郡人之嵯峨帝、皈依僧能書博學能文

章委元亨  
叙書ニ

こんざう

勤操

秦氏和羽高  
市人天長四

こおほきみ

小大君

重明親王女之拾芥、曰三条院  
坊ノ御時女藏人左近ト云歌人之

こたうし

吳道子

唐朝  
畫工

こせう

扈從

又小姓共  
不穩

こうちやう

巧匠

又工匠共頌倭アリ是ヲたてト訓古ハ  
飛騨、国ニ良匠多シ故世俗ヒダクタクニト云

こうしやう

後室

字書註  
室ハ妻ト云

こうしや

功者

訓イサラシ  
ヒト

こせうぶ

兄部

カ者ノ  
頭ヲ云

こうせう

護持僧

こまうご

高麗人

源氏桐壺卷ニこそうご  
の相人きうこうとして

こくさう

國造

訓くはのさかひこ往右ハ国々郡々ニマブコ  
アリ今ハ出雲、国ニナリ大已貴ノ子孫ト云

こうじん

業人

佛家ニ  
云

こうご

妻兄

妻身ハ爾推  
云婦之黨ト爲

ごさう

五臟

或作藏、心肝腎肺脾也  
附六腑、左心肝腎右肺脾命門也

ごさう

腓

又跟附ニ  
ダリ轉筋

ごひあ

腫足

又彈足凡毛詩註曰腫足、日腫足病也  
頰倭ニトヒトナ同註曰早濕之地其人多シ

こさう

偃

又癡俗ニ  
云

こつさう

乞食

附こつがい、西  
又カハト西徒

こさう

偃

こつさう

乞食

附こつがい、西  
又カハト西徒



ことよび

季指 順倭ニ  
小指ニ

ことい ひ

特牛 頭ノ大ナル  
牛ヲ云字各

ノ註ニハ  
牡牛也

こんじてう

金翅鳥 梵鳥ナ  
リト云其

鳥兩翅相去三万六千六百里  
アリト之莊子ニ云大鵬ノ類カ

鴻 訓カリ大日ト  
小日雁又ひニ

こねさぎ

五位路

鯉 或作鱣順倭ニ  
トアリ誤ク口傳ニ

こうろぎ

蜻蛉 順倭ニ世ニ誤  
テ野ニ集ラ

キリクスト云壁ニ集ラコウロギト云礼記七十二候六月蟋蟀居  
壁トアリ古歌トモヲ考ニモニ虫ヲトリキガヘタルト聞ユ

蜈蚣 訓ムカデ

こてふ

胡蝶 古今ニこてふ  
ハコウキ

中文字ヨフ世ニエウト用末ル唯音ニ  
コトヤ似ルコト云似トカケリてハ音之倭訓ナシ

**生植** ことふばら 五葉松

中文字ヨフ世ニエウト用末ル唯音ニ  
一枕草子ニ本ハことふトアリ

梢 又抄木  
未之

こぼえ

木傳 鳥ニ付テ云  
歌ニこつて

まことの羽風子  
トアリ

こうぼく

厚朴 薬ニ  
用

こうむい

紅梅 附一殿ト云アリ五条坊門北  
菅丞相御所跡也拾芥ニ

梧桐 常ニアシ  
キリト云

これがか

兒手拍

こせう

胡椒 此本能生ス多子故皇后之宮  
慶植之謂之胡椒房椒室也

ごくゆらばら 極熱草藥

源氏篋帯木ニ出タリ巴抄  
云ニニクノ類ナルベシト

ごんり

牛蒡

作牛房非又惡實ト云  
倭訓キタギス順倭ニ

**服器** こんねり 哀龍

天子御衣ナリ

こほりりち 水饅

本州ニ

こがね 燂飯

又麩コガシト斗モ

こいちや 濃茶

古、百服茶ト云

こほりりち 乳糖

本州又石蜜即氷砂糖

ぐんづ 漿

米汁

こんいね 強飯

又餠饌又糯蒸飯ト云

くまざん 穀梁傳

九經内

こきんわらふ 古今和歌集

友則 貫之 躬恒 忠岑等ニ勅シテ延喜五年ニ撰ハル

こくごふ 公帖

帖又狀氏禅僧官位ノ時公方ノ許狀也但首座以上ヨリ出ル尊氏卿ヨリ始ル

こくごふ 帷串

上字字彙註胡鈞切射ト古作候トハニトツサスクシテ的ハニトノ目アテ中ノ黒星ヲ云之俗的ノ字ヲマコト讀来ルハ

こくごふ 柱

又頰倭曰徽琴ヲ用之柱ハ琴ニ用テ不穩

こくごふ 刻印

作刻印誤之又俗作木印

こくごふ 殼巾子

冠ノ入髻ヲ所ナリ

ことばを 絃

琴ノ系ケルニハワルト訓ス

こんじやう 紺青

又金青氏 昼具

こうりやう 虹梁

家屋ノ具

こほりりち 櫂

頰倭ニサラヒト斗註曰四齒把之又把字書註ニ收琴器トアリ又俗ニ木間把トモ又駒撮トモ用来ル不詳

こまひ 槐

又栢楯カベノコヒ之俗ニ木舞

こくごふ 牛黄

藥品之又同訓ニ牛王或

御即位 書ニ本朝牛王宝印ノ札ハ生土ノ二字ヲ合テ別レハ牛王トナル生土ノ二字ウブスナト訓ス故ニ以生土神之印爾貼門戸而禳障礙之義トアリ

御即位

ころもぐ 更衣

四月朔又九月九日又

謠物ノ名ナリ

こうねん 後胤

又べうねん苗胤作胤誤

雜事

こくごふ

例

十

こうたり

勾當 与白同 僧位之行事一公文謂之所司或座頭一アリ或女官一内侍等

こうちやう

骨張 俗ニ盗ノ一ト云 こうゆ

口腹 口欲アルヲ一ノ人ト云附

こうひ

喉痺 病ノ名之 作痺俗 こえ こゆ

肥 又同訓ニ糞田 畠ニ用之ヲ

こゑ

聲 又音又こゑノ 聲音 こゑはく

聲

こたふ

答 又諾又對 又應 こんぶやう

根情 又本一ト云

こゝろはく

心自 附一得 ころむ

心緒 又意見日本 紀ニ又心操

こゝろまどひ

失意 日本私記ニ 又悶ノ字 ころん

悵 又忍

こゝろえ

拵 又調又人ヲスカスヲ コミラユト云時誘字 こゝろ

乞 又請 又西

こがう

小督 女官附ニゴ 又長一室相 こうたり

公道 俗ニ人カラ

ごう

五常 仁義礼 智信 こうと

昏鐘鳴 入相

こうず

薨 訓セシ公 侯ノ死ヲ云 ござる

五障雲 佛家ニ 云

こぢり

故實 又同訓ニ故 こうびく

厚薄

こぢり

拒障 辞退ノ義ニ 又同訓ニ故 ことやう

異様

こうぎやう

興行 又一廢 又一隆 こと

絞 腹ナド

こんぶやう

懇望 附一意 こと

無越 又閑雅ニ河海ニ

こんぶやう

懇望 附一意 こと

無越 又閑雅ニ河海ニ

源氏ニハ雲抄ニ云  
コトノ外心トゾ

こむゆに

故以 又所以  
トモ

こほり

凝

こほぐる

復本 ふたつゆ  
及係氏ニ

こほり

恒例

こぼれいふ

僥倖 上字又  
作傲

こほり

訥 言遲ニ又  
トモト訓

こりぎ

公義 儀ト書  
アシ

こほり

強 作彊同又同  
訓ニ剛又云ニ

ころほひ

比及 比字斗モ  
又黎

こほり

濃 俗  
作濃

こえそ

越 又踰

こほり

理 又斷又言理  
氏日本紀ニ

こうむい

句配 与句同  
家ナト

こほり

寒 又凍  
又近

こひ孫ふ

庶幾 又希  
又冀

こほり

後音 附ニそり朝  
又そり朝

こころが

諺 字書註ニ云  
言事ト

こほり

固有

こひまふ

戀慕 古事紀ニこひ孫ふト訓又附こひま  
一種又こひの座つこい婢又こひま路

こうぢり

極 又困又窮用  
所ニヨル又云ニ

こほり

不凝 又不徹まハ付  
字ニ古今悉

こうづ

こほり

小倉 人ノ姓以  
下準之

こほり

興津

こほり

國府寺

こほり

郡



依変依変レ之又衣変え変レ俗ニ江字ナ用ハ非ニ偏假名  
全カナレニ声ノ字ナシ空海師ノ以呂波ヲ見テ

乾坤

えんてん 炎天 或作焱

えんてん 延曆寺 桓武天皇

年中 建立

えんとう 遠島

えさ

江差 陸奥郡名

えり

愛智 近江郡名

えぬ

江沼 加賀郡名風土記曰景行天皇御宇

えん

荏原 武藏郡名

えんね

江葉井 又榎一氏常

ノ清水ノイヲモ云又大和国高市郡ノ名所催馬梨ノ詠物  
を傳此寺のノ一に白玉をくトアリ又源氏ニモ出タリ鴨ノ  
長明カ歌ヲにげん  
こまの寺のノ一に  
トイハル遊女西行カ宿シカラント云シテアリ  
附えのノ一ノ嶋相列ニアリ又榎島トモ

えん

江口 根津国神崎ト並此所ノ妙

えん

蝦夷 又ノ一ガ島氏又ノ一ノ千島氏云又ノ一ノニ子之ミ  
志ト訓メ古ハ王城ノ東方ヲ都テエミシト云西方  
ヲ熊籠ト云敢テ定ル所ニハ非ス後ニハ  
定ル之可見日本紀崇神景行ノ紀ヲ

氣形

えんいん 圓融院 六十

えんてん 役行者 名小角ト云大

和国葛上郡茅原産之本朝文粹第十一曰役居士其先  
高賀茂間賀介文武帝之時人也ト今修驗宗之祖委  
元亨 叙書  
えんてん  
江侍従 朱雀院ノ母后ニ仕ヘ

シ女歌 人ナリ

附えんてん 帥

鳥羽白河此人即匡房  
在朝為納言在外為太

宰帥又兼大藏卿故曰江大府卿曰江都督又曰江帥其  
著述見續文粹朝野群載及無題詩集且江次第一書  
至今人依之江談抄其一説話布  
門人記之全論不傳

列

廿三

えんぬらふ志

圓位法師

又云大法房後改西行俗名佐藤兵衛  
憲清ト云藤原康清子鳥羽院下北面也

えんまわり

焰魔王

地獄ノ  
主ト云

えた

穢多

屠兒ト云  
是く俗是シ

えびと

東夷 南蠻 北狄 西戎  
也或指土地云

えび

肢

四支之十字丈ハ四支ト  
書テヨツエガト訓ス

えり

胞衣

胎  
也

えんごう

猿猴

負猿ニシ  
長臂之

えりさい

雀賊

小鷹  
ナリ

えび

鰕

又海老附おほえび  
海鰕本州ニ

えり

鯨

又鯨

えぬ

鱒

作鱒俗又  
海鰕魚トモ

生植 えり

枝

又采又條附むりかえ梅一ちりかえ松一とぎがえ萩一  
等く又えりこもり一橈万葉ニハ一十尾トカケリ

新古戀社くきれえりこもり一をく病の又えりこもりトモ  
古今ニえりこもりトモをゆる白鳥同字ト又えりこもりトモ

ぶえ 沉一又えりこもり  
下一ちりかえ析一

えのき

榎

作榎同  
作榎非

えびごう

蒲萄

字彙註曰俗以葡爲蒲萄字トアリ日本紀ニハ蒲陶  
ノ字ニハ愛ニハ字彙  
ノ註ヲ考載之ヲ

えんごう

豌豆

註ブンドウ  
ノ下ニ

えびすごき

芍薬

順倭ニ今ハ声ヲ用又決明草ト  
書テモえびすごきト訓ス

えびひひ

苳

又他倫  
草トモ

え

荏

油ヲ  
トル

えりごき

龍膽草

常ニ声ヲ用テリヲタント呼  
又訓ニグキト註委ニハノ下ニ

十四

えもぎ よもぎ

蓬

又蒿又艾又サセモモサシモグサ花歌ニサセモクモガ

えびすめ

昆布

須倭曰生東海故有此名  
又ひろらト訓ス世ニ音シ呼

服器 えん

衣文

附一

えん

襟

又衿又社

えんぐら

線道絹

源氏及枕草子ニえんぐら  
一きそトアリ又地布ト云

えんごい

鹽梅

俗ニ云アソイ  
又一酢ト云

えい

纓

須倭ニえんごト  
訓ス又万葉ノ

えびぞり えんぞり 蒲萄染指貫

源氏ニ出タリ東帯色目曰エヒ表ニ蕪枋  
裏ニ花田ニ 淺黄色ヲ云 當時著用ハ薄色指貫ノ

一ノ或抄ニ云エヒ染經赤緯紫ノ薄色綾指貫著スル一大概二十以後  
可然致禁色殿上人著此紫海文今朝夕風夜近習輩内々著箇  
文織物ニ并綾無憚之由後鳥院御抄凡鳥釋ハ尋常浮文ノ  
綾并固文ハ不可然云但近代連綿ト云凡鳥釋ナラハ必固文カ  
鳥釋ハ幼年ノ文ノ固文并綾ニ鳥釋ヲ  
用ル一凡不可然無其理也ト

えとごひ

甲乙飼

馬ノ藥飼ノ小河ノ乗澄ガ  
所編ノ安驥ニ見タリ

えん

燕脂

須倭ニ支ト同書註曰号支山出丹也ト  
經粉ノ一ヲ云之附えん一ノ巢ハ料理ニ用

えぼ

烏帽子

中ノ字作帽非又古書ニ  
えぼトアリ誤ナラシカ

えんせう

焰硝

一名消石本州鹵石類ニ出タリ  
俗ニ塩消ト書ハアテ字ナリ

えびれ

葉皮香

源氏ニ出タリ巴抄ニ曰採梅担樹葉皮春節之  
爲香故曰一ト須倭ニハ邑衣香ノ三字ヲえび

クハト訓ス又或書ニ  
衣被香ノ三字同訓

えんざ

圓座

香ワノ字  
シルス

え

柄

又柯又ウツハモノ、侍ケ  
或ハ芥ノ一或ハ瓢ノ等也

えび

鑰子

順倭曰鎖子之類俗ニ是ヲカギト  
云字ニ用誤カカギハ鍵ノ字也

えり

杓

順倭ニ又字彙註曰無齒把也  
ト今酒家ニ用ルモノナリ

えび

籠

又胡篋也又是シニト云鞆ノ字又訓リんだ皆  
エビノ一ノ註也ニモ出又養蚕器ヲモラト云ハ笛字

えり

棧

日本紀及順倭ニモ出タリ家具也  
又蘆藿ノ二字ヲモエツリト訓ス

えり

彫刻木

えいぬ

撰

作選同又  
擇又簡

えり

嘔

えいゆ

英雄

勝千人ヲ  
トト云

えり

閻浮身

古今短歌ニえりあのこれ  
しあや

えり

疫

又一癘又温ト又左傳ニ癘字ヲエマシト訓ス又本艸  
服器部ニ鐘虺ノ二字ヲ云ミトト訓ス

えり

不得知

かりけのいそあのか  
えりあの等ナリ

附えいざり言

えり

又えり

伊物ニ女と  
えりガト有

又えりあのり聞

えり

窈窕

ミマヒマカレ  
又ミマカレ

えんわん

延引

いきこ  
らト訓

えり

曳哉

物ヲ引音又えいさうえい  
曳去得皆俗言難用也

えり

艶

又えりあぬ又  
らビト訓ス

えんせり

演説

えり

依怙

タノニル  
ト訓ス

えん

焉

語助也又鳥ノ名  
順倭ニカナト訓

えり

課役

古事  
記ニ

えん

偃息

休息  
ナリ



えいらん

叡覽 上字作叡作叡共俗之下字作覽亦俗之

えん

宴 作宴非花一月一重陽一曲水一内一

えさうぬ

敢不去 万葉ニ又源氏ニえさうぬめぶりの戸

えり

縁 声シニバ子スルニハ休字伊物ニかりんねるねぬ

えた

得 附えりの獲是田 獵鳥獸ラウレ

えちりぶ

依智秦 人姓以 下準之

えのぬ

榎井 又一本 又一並

えこ

江見 一戸一ロ 一田等

七

天変てり変てり変てり 又亭変り変り

乾坤てりやう

重陽 九月九日月令云九月九日月与日 應陽敷之故ニ云一トナリ

てんぢく

天竺 作竺俗又云印度 又云月支國 天王寺 在攝州一聖 德太子之建立

てりてい

朝廷 モロコシニテハ天子諸侯共ニ云日本ニテハ 天子ノ宮ニカギル附一賀一拜等

てりちり

濃州 作濃俗美濃國之のハ漢音でハ 吳音く世ニ云るちりト書ハ非

でん

出羽 和銅五年始割陸奥十二郡一置之或説曰大宝元年 置之古此国就鳥雁鳥之羽ヲ貢ス故ニ云一ト

てりせん

朝鮮 新羅高麗百濟是ヲ三韓ト云三國共ニ韓氏ノ國ナ 故ク三韓合テ一ト云以前父キ國号クトイハ氏倭ハ

專三韓ト云三韓共ニ服日本ニ之由倭書往々載之殊神功皇 后征三韓事人皆称之からトハ高麗ヲ指し一トハ中華ヲ

指シ歌ニモろこトヨミ古今ノ序ニカク此ノトイハルナガテ  
中幸高麗シワカツトハ不見古今詞書ニビツクマヨるをモロコ  
一に物ナクモツクニツククニツクケルト有ハ中幸ナリ日本紀  
高麗ヲカクト點ス是カウライノ下略ナリ實ハモロコト  
カクハ各別ナリ一史記列傳五十五  
後漢列傳七十五ヲ考ベシ

**氣形** ていむだう程明道

諱顯字伯淳宋河南人神宗時之明儒大賢也  
元豐八年乙丑卒第伊川諱頤字正叔徽宗大  
觀元年丁亥卒是又大儒賢人也以兄弟同德之故謂二程  
而不分兄弟第二程之學出於周茂叔而周子之學則得乎千  
歲不傳之緒朱子記周子之祠曰上梅洙泗千歲之統下啓  
河洛百世之傳周茂叔二程張橫渠朱文公之謂宗儒四先生  
再造大道開示來學事跡人々識之傳在宋史  
伊洛淵源錄名臣言行錄等之諸書

てうぎ

趙岐 字邠卿初名嘉後漢人作孟子註并  
三輔決錄後漢書列傳五十四載之 附てうす

かり子昂

元朝之善書又畫並帶  
芙蓉圖官至翰林學士 又てうまやう

一昌

宋朝畫工  
得果子

てうでんを

北殿司 東福寺ノ  
僧能畫

でんげう

傳教

寂澄謚之姓ハ三津氏近江国滋賀人後漢獻帝之  
裔之貞觀八年七月十三日賜大師号ヲ桓武帝般依

てうまやう

鳥獸 日本紀ニトリ  
シト訓ス

てふ

蝶 又てふ  
胡一匹

生植 てんきう

天雄 藥草之附てんきう一門冬  
てんきう一南星

てうき

濃花 又てうき  
一香

服器

てうめ

朝服

常參内スル服之一位以下五位ニテハ皂羅頭巾ナリ  
撰家ハ丁子唐草ノ織紋アリ撰関ハ大立瀧親王立瀧

諸家ハ轡唐草之牙笏自袴金銀裝腰帶白襪烏皮履  
 六位ハ深緑衣七位ハ浅緑衣八位ハ深縹初位ハ浅縹地ハ各薄  
 物何モ皂纒頭中常ノ冠之ヲモシナキ木笏ウツツリ烏油腰帶飾ナキ白  
 袴白襪烏皮履〇又武官一衛府督佐志公老懸卷纒位  
其位ノ表衣大形萬丈文官ノ如シ太刀ヲキ弓ヲ笠前ヲ帶ス六位以下ハ  
 カウヨリノ様ナル纒之是ヨリ下モ少ツ替アリ古アリシ事ノ今断  
 絶スルモアリ又昔ナキフノ此比アルモアリ亦取違テ用モアリ今  
 文官モ太刀アリ常ニハ文官武官モ分ナシ衣冠計ニテ出仕ナリ  
 冠ト衣ト袴ト計ニテ萬ノ裝束ハ揃ハス畧ノ  
 畧之礼服ハ上ノ晴束帶ノ晴夜冠ハ畧之束帶色也

ておほい たおほひ  
てといへん

手覆

てのこひ

手拭 古訓たぬき  
ひまたみ

てふしやう

牒状

でい

泥 金銀

てうしやう てうしやう

兆子

或兆子一ノ擲蒲皆及六ノ類  
中比洋土双六ト云好事者作之

てふつひ

蝶鉸

屏風ホニ云下字ク  
尤尺又一操尺

てげ

傀儡

声クワイライ  
順倭ニクツト

計アリ  
 人形之

てうそく

鳥目

銭ノ異名之  
良鶴ノ瞳ニ

似タレハ云又  
 鵝服トモ云

てうの

鉞

てうしやう

鐵炮

作鐵俗作鑊古文夫文之比渡倭国然名ハ太平記四十  
ニ出タリ。鉄炮記曰將軍杭  
長數冊 火燉炮 二文糸 石子

炮 文糸以石爲彈丸 三眼銃  
 九尺 火炮 二尺 或四尺 鳥銃 二尺

てし

銃子

酒喫之順倭并  
シナト訓ス

てうしやう

調度

諸道具ノイラフ云又てうしやうノ懸ト云アリ公家ニ云ハ鳥  
帽子ノ縛緒ト武家ニ云ハ弓世則ノ具之然公家ニヨリ其物カハル

武家ニモ調度ト斗可謂フ懸トハ其役スル者ヲ云ナルベシ。建曆二年  
 正月十九日將軍家鶴岡社參時召大湊賀四郎胤信被仰可懸御  
 調度由之所因辭之仰云於當役者右大將家御時以二十之箭  
 可射取二十人敵之者可候之由被仰定畢然者奉之勇士可

備面目之所称下劣職道達糸甚自由也早可止出任之旨蒙御氣色云云依之和田新左衛門尉常盛隨此役之由見東鑑云

てうちん

挑灯 又張燈行灯ト一ト取十ガハタル

てうづむけ

手水桶 又鉢

天井 家具又一縁

てうづむけ

手傳附てづひ一遣又てづづ一躬 又ト自

てとあざへ

又てはぐひ一緒 又てあざへひ一習

てとあざへ

又手 兩指相交ナリ

てうちかぶり

手打首振 小兒ノ愛云

てごたへ

搥

てうこく

彫刻 下作刻誤ナリ

てうし

調子

九十二律、十一月壹越十二月断金正月平調二月勝絶三月下無号竜吟四月雙調五月鳧鐘六月黃鐘七月

亦寫鐘八月盤涉九月月神仙十月上無也

てうせん

重半 雙半俗調半

てうきんねぎやがう朝觀行幸

正月二日之年中行事。礼記曰春見日朝秋見日觀トアリ

てうせい

朝拜

又一賀正云元正ノ賀ヲ奏スル一之神武元年正月朝日ヨリ始ルノ由塩囊抄ニ又ニてうせい小一ハ是モ元正清

冷殿ニテ関白大臣以下冬帝ヲ拜奉ラル

てんそ

傳奏 作奏俗又てん

てうはら

重寶

作寶俗又作宝附てうぐ一疊又てうぐ一六

てうめ

調伏

人ヲのろふナリ日本神代卷ニ此テウホギト云呪ノ字ナリ

てんぼ

轉蓬

人ノウカレ乱タル者ヲ云又てんそ

てうふ

銜

作銜同人ニハツラフ云又賤賣ノ二字ヲモヨム

てうきん

朝恩附一  
敵

てうきん

超過

てふ

云 又謂又言又日皆同  
訓一万余註端いニ

てへ

下知ノ詞之何トイト云時用古今  
雑金(むろ)トてかくさるりて

てへエれが

者 倭文ニ多ていれが  
トアリ古書ナシ

てうすう

條數 作條數  
共ニ俗

てうきん

逃散 作逃非  
附一云

てうし

輒時 上字音テフ  
即時之

てうあひ

寵愛 作愛  
俗

てうろ

嘲哂 アザケル  
ト訓ス

てうけん

調練 鍛鍊ノ  
義之

てうばう

眺望 作望  
俗之

てうあひ

超越

てんわう

諂誑

てうかう

調合 下字音ガフ  
薬ノミ

てんぢやう

點定

てんごう

纏頭

てんきやう

癲狂 病ノ  
名

てうあひ

濃色

てうやう

調法

てんだう

顛倒

てづるあ

無傳通 俗言  
ナリ

てんがらう

勅使河原 人ノ姓以  
下準之

てうれ

寺尾 又一井  
又一川

倭字古今通例全書卷六終

[Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.]

[Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.]

六

六

